

和歌山県
埋蔵文化財調査年報

—平成 13 年度—

2003. 3

和歌山県教育委員会

例言

- 1 本書は、平成13年度に文化庁の補助事業として和歌山県教育委員会が実施した試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の成果の報告であるが、市町村支援のため職員を派遣した調査の成果についても掲載した。
- 2 埋蔵文化財包蔵地の範囲変更については、埋蔵文化財包蔵地所在地図（平成8年3月）出版から平成15年3月10日までに変更があったものについて掲載した。
本書では、埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称は変更後のものを使用している。
- 3 本書で使用した地図は、特に断りのない限り、遺跡位置図の縮尺が2万5千分の1、調査位置図の縮尺が2千5百分の1で、上方が北である。
- 4 座標値は、日本測地系に従う。
- 5 本文中で使用した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』による。
- 6 本書の編集は、和歌山県教育庁文化財課調査第1班が行い、執筆は各担当者が行った。
- 7 本書で割愛した土層図等の資料は、文化財課で保管しており、閲覧可能である。

目次

	ページ
平成 13 年度 和歌山県内発掘調査関係統計資料	1
埋蔵文化財包蔵地の範囲変更	2
県教育委員会の調査	5
一覧表	6
1 田屋遺跡	8
2 磯脇遺跡	10
3 橘本王子	10
4 福田下遺跡	10
5 岡村遺跡隣接地	11
6 下佐々Ⅲ遺跡	12
7 岡田Ⅱ遺跡	15
8 東田中遺跡	15
9 北勢田遺跡	15
10 紀伊国分寺跡	15
11 粟島遺跡	15
12 王城跡	15
13 北長田遺跡	16
14 粉河寺遺跡	18
15 上尾遺跡	18
16 城の段遺跡	18
17 平池遺跡	18
18 最上遺跡	19
19 元遺跡	21
20 根来寺坊院跡	23
21 柏原遺跡	25
22 金剛峯寺遺跡	27
23 神々野Ⅲ遺跡	28
24 応其Ⅰ遺跡	28
25 名古曾Ⅰ遺跡	28
26 渋田遺跡	28
28 宮崎城跡	29
29 旧円満寺遺跡	29
30 中井原遺跡	29
31 弁天山古墳（向山4号墳）	30
32 徳蔵地区遺跡・高田土居城跡	32
33 大塚遺跡	35
34 白浜町～すさみ町	37
35 川関遺跡	39

平成13年度 和歌山県内発掘調査関係統計資料

届出等件数

文化財保護法	指示内容	発掘調査関係											その他				計				
		道路	河川	学校	住宅	個人住宅	工場	店舗	兼用住宅	その他建物	宅地造成	公園造成	ガス等	農業関係	その他開発	遺跡地図作製等		学術	遺跡整備	その他	
工事の届等	57条の2	発掘調査				12	4		4	1	11		2				1	—	—	—	35
		工事立会				13	102	1	4	5	20	1		21			9	—	—	—	176
		慎重工事				10	24		4		14	1	1	3		1	7	—	—	—	65
		その他																—	—	—	0
		計	0	0	0	35	130	1	12	6	45	4	1	24	1	17	—	—	—	276	
	57条の3	発掘調査	10		3					4			2	1		2	—	—	—	22	
		工事立会								1			9			4	—	—	—	15	
		慎重工事	5	1								1				5	—	—	—	12	
		その他															—	—	—	0	
		計	15	1	3	0	0	0	0	0	5	0	4	10	0	11	—	—	—	49	
合計	15	1	3	35	130	1	12	6	50	4	5	34	1	28	—	—	—	325			
発掘届等	57条	試掘・確認調査																		0	
		本発掘調査	7	1	3	3	1		1		3					4	1	1	4	29	
		計	7	1	3	3	1	0	1	0	3	0	0	0	0	4	1	1	4	29	
	58条の2	試掘・確認調査	9		1					4	1							1		16	
		本発掘調査	5			2	3											2	0	11	
		計	14	0	1	2	3	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	2	0	27	
	合計	21	1	4	5	4	0	1	0	7	1	0	0	0	4	1	3	4	56		

国指定史跡名勝天然記念物の現状変更

種別	名称	概要	許可・不許可の別	許可条件	文化財保護法施行令第5条該当条文	
権限委任分(県)	1 史跡	金剛蓋寺境内	墓地整備等	許可	県職員立会	ハ
	2 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	県職員立会	ハ
	3 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	高野町職員立会	ハ
	4 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	県職員立会	ハ
	5 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	慎重工事	ハ
	6 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	県職員立会	ハ
	7 史跡	金剛蓋寺境内	階段修理	許可	慎重工事	ハ
	8 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	高野町職員立会	ハ
	9 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	慎重工事	ハ
	10 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	高野町職員立会	ハ
	11 史跡	金剛蓋寺境内	墓石修復	許可	慎重工事	ハ
	12 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	高野町職員立会	ハ
	13 史跡	金剛蓋寺境内	供養塔建立	許可	高野町職員立会	ハ
	14 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	慎重工事	ハ
	15 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	高野町職員立会	ハ
	16 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	慎重工事	ハ
	17 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	高野町職員立会	ハ
	18 史跡	金剛蓋寺境内	墓石建立	許可	慎重工事	ハ
	19 史跡	金剛蓋寺境内	墓石交換	許可	慎重工事	チ
	20 天然記念物	ニホンカモシカ	神戸市立王子動物園で生まれたニホンカモシカ譲渡	許可	適正管理	チ
権限委任分(和歌山市)	1 名勝	紅葉渡園	通路への手摺り設置	許可	和歌山市職員立会	ニ
	2 史跡	和歌山城	西堀内ポンプ設置	許可	和歌山市職員立会	二
	3 史跡	和歌山城	選着用標示板・看板設置	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	4 史跡	和歌山城	テント12張	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	5 史跡	和歌山城	証明器具設置	許可	和歌山市職員立会	二
	6 史跡	和歌山城	一の橋大手門屋根防鳥網設置	許可	慎重工事	ニ
	7 特別史跡	岩橋千塚古墳群	フェンス改修工事	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	8 史跡	和歌山城	大手門囲い欄改修工事	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	9 史跡	和歌山城	大手門広場掘り欄改修工事	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	10 史跡	和歌山城	大手門広場掘り欄設置工事	許可	慎重工事、終了報告	二
	11 史跡	和歌山城	空堀欄柵改修工事	許可	慎重工事、終了報告	ハ
	12 史跡	和歌山城	大手門広場ラジオ塔撤去工事	許可	慎重工事、終了報告	ロ
	13 史跡	和歌山城	PHS用公衆無線局設置継続	許可	慎重工事、終了報告	又
	14 史跡	和歌山城	ハンドホール・地中電線路設置継続	許可	慎重工事、終了報告	又
文化庁進達	1 史跡	熊野参詣道	橋梁の木材交換	—	—	—
	2 史跡	和歌山城	発掘調査	—	—	—
	3 史跡	和歌山城	雁木石段の補修	—	—	—

遺跡の発見届出件数

届出件数	
57条の5	1
計	1

出土文化財認定件数

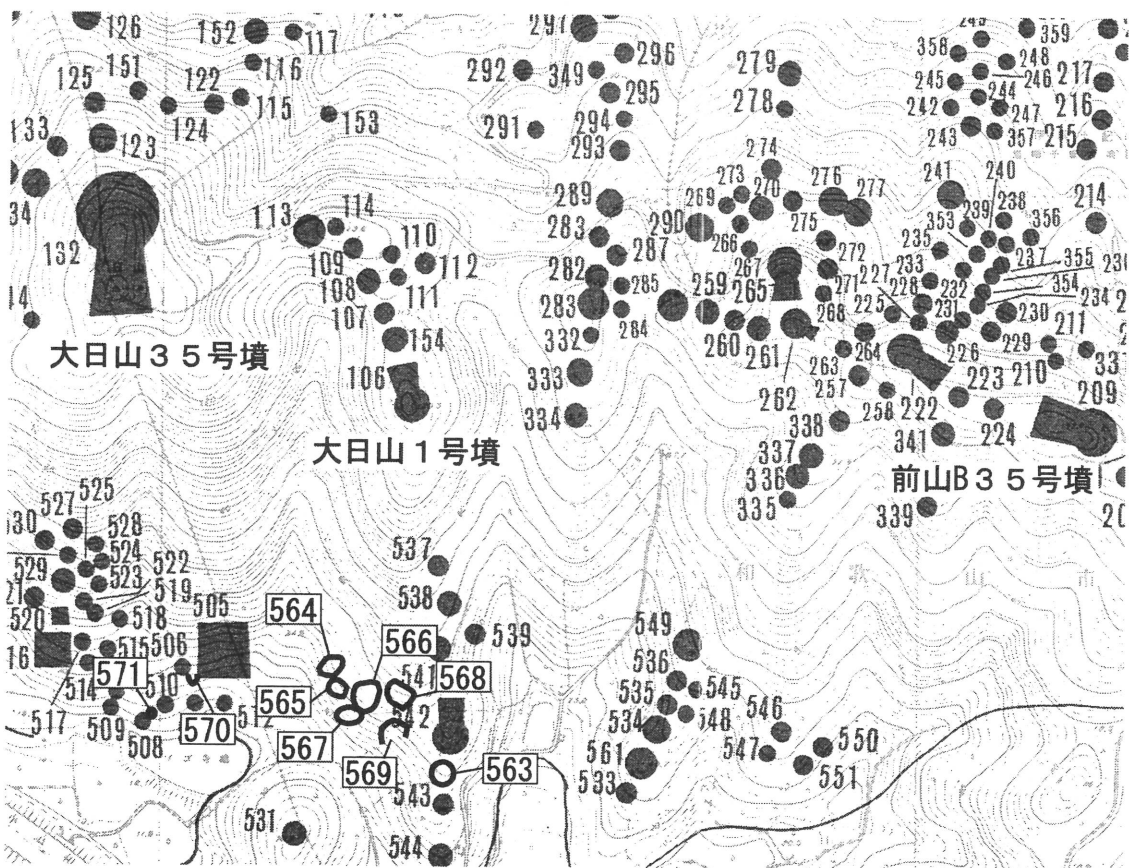
認定件数	
県	26
和歌山市	17
計	43

埋蔵文化財包蔵地新制定・範囲変更

遺跡名	所在地	変更日	変更内容	備考
岩橋千塚古墳群	和歌山市寺内、井辺	H15.3.10	古墳番号追加	発掘、分布調査結果
野口遺跡	橋本市隅田町中島	H12.7.17	範囲変更	発掘調査結果
北馬場遺跡	橋本市北馬場	H12.7.17	範囲変更	発掘調査結果
小原田遺跡	橋本市小原田	H12.7.17	削除	試掘調査結果
荒田遺跡	岩出町森	H14.6.21	範囲変更	発掘調査結果
尼ヶ辻遺跡	岩出町尼ヶ辻	H15.1.24	範囲変更	発掘調査結果
窪・萩原遺跡	かつらぎ町萩原	H15.1.24	範囲変更	試掘調査結果
堅田遺跡	御坊市湯川町財部	H13.7.10	範囲変更	発掘調査結果
川間遺跡	那智勝浦町川間	H13.7.27	新設(中世)	発掘調査結果
下佐々田遺跡	野上町下佐々	H13.7.30	範囲変更	発掘調査結果
出塔の水道	橋本市出塔	H13.11.9	新設(近世水利施設)	分布調査結果
鹿島製塩遺跡	広川町鹿島	H13.10.11	新設(古墳時代製塩遺跡)	分布調査結果
鹿島明恵上人遺跡	広川町鹿島	H13.10.11	新設(中世寺院跡)	分布調査結果
観音堂遺跡	広川町鹿島	H13.10.11	新設(中世寺院跡)	分布調査結果
粉河寺遺跡	粉河町粉河	H13.11.9	範囲変更	発掘調査結果
徳蔵地区遺跡	南部川村徳蔵他	H14.4.8	範囲・名称の変更	発掘調査結果
古川遺跡	南部町気佐藤	H14.4.8	徳蔵地区遺跡へ統合	発掘調査結果
梅田遺跡	南部町東吉田	H14.4.8	徳蔵地区遺跡へ統合	発掘調査結果
大年遺跡	南部町気佐藤	H14.4.8	徳蔵地区遺跡へ統合	発掘調査結果
高田土居城跡	南部町気佐藤	H14.4.8	範囲変更	発掘調査結果
高田遺跡	南部町気佐藤	H14.4.8	徳蔵地区遺跡へ統合	発掘調査結果
大塚遺跡	南部町東吉田	H14.5.23	範囲変更	発掘調査結果
熊岡Ⅱ遺跡	南部川村熊岡	H14.4.8	新設(縄文～中世散布地)	発掘調査結果
慈尊院Ⅱ遺跡	九度山町慈尊院	H12.7.17	範囲変更	立会調査結果
慈尊院中小路地先遺跡	九度山町83地先	H14.4.8	範囲変更	分布調査結果
扇子畑石斧出土地	金屋町長谷川扇子畑	H14.8.29	新設(縄文石斧出土)	新発見
三味塚古墳群	打田町下井坂	H14.5.28	範囲変更	—
玉の川松煙生産遺跡	古座川町平井玉の川	H14.4.16	新設(古史時代生産遺跡)	新発見

埋蔵文化財包蔵地の範囲変更

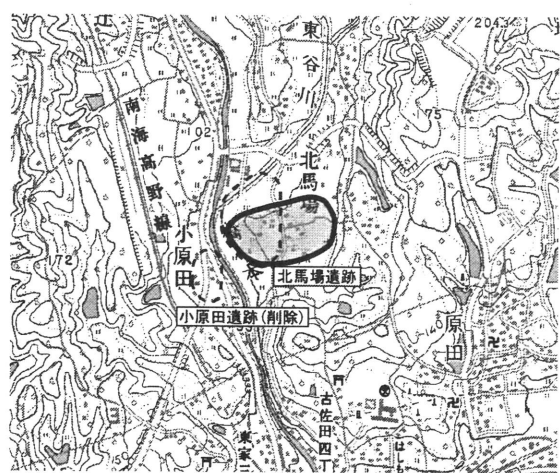
本県では、平成8年3月に和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図の改訂を行ったが、それ以後平成15年3月20日までに範囲変更、新規登録を行った埋蔵文化財包蔵地について以下に掲載する。破線は旧範囲を、実線は新範囲を示す。所在地などは1頁の表参照。



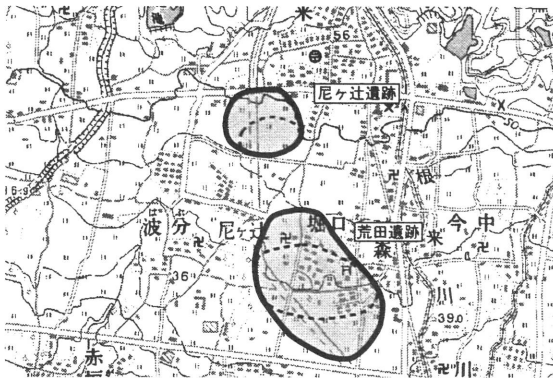
岩橋千塚古墳群（遺跡番号 185 の枝番号として 9 基の古墳を登録、S=1/2500）



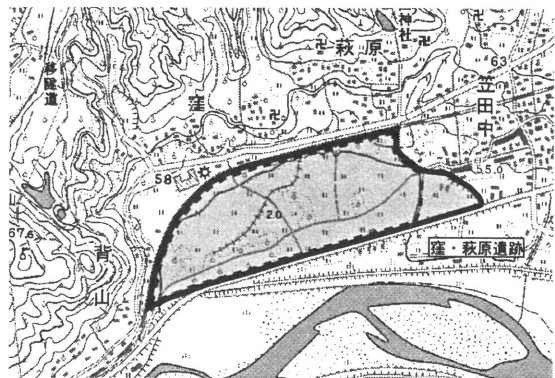
野口遺跡



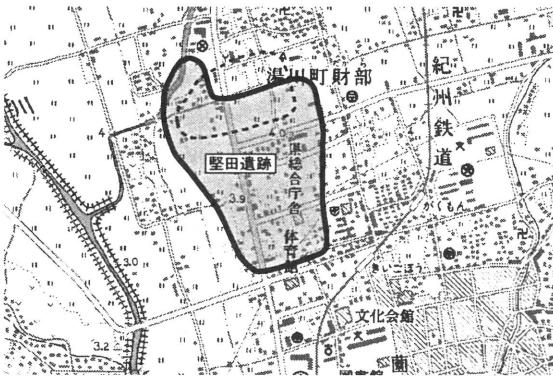
北馬場・小原田遺跡



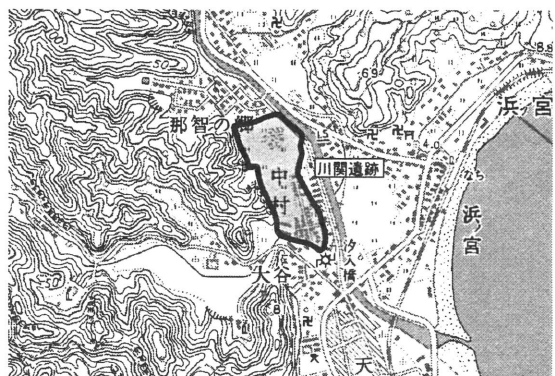
荒田遺跡・尼ヶ辻遺跡



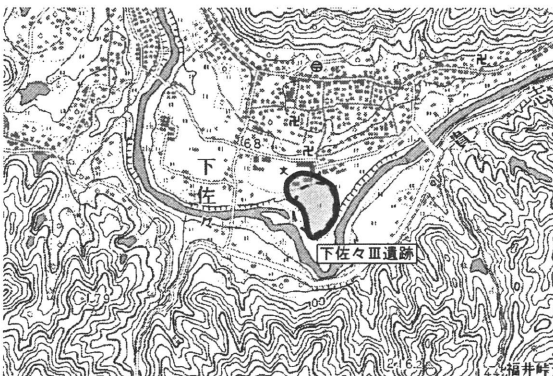
窪・萩原遺跡



堅田遺跡



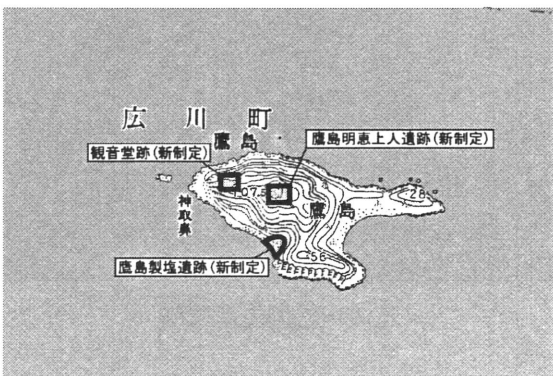
川関遺跡



下佐々Ⅲ遺跡



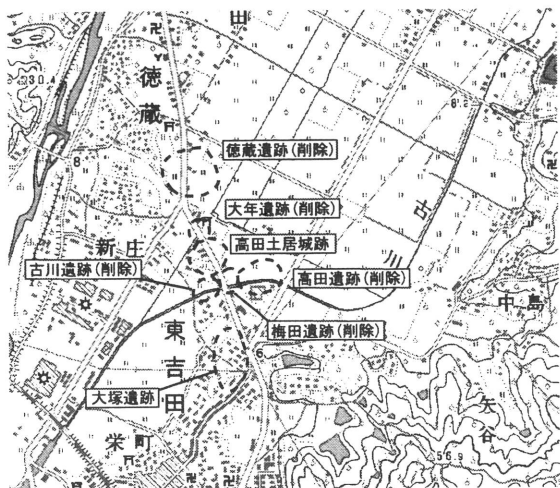
出塔の水道



鷹島内遺跡



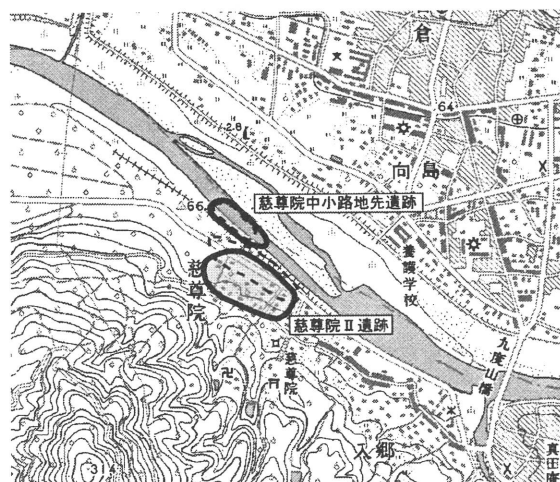
粉河寺遺跡



徳蔵周辺遺跡（旧範囲）



徳蔵周辺遺跡（新範囲）



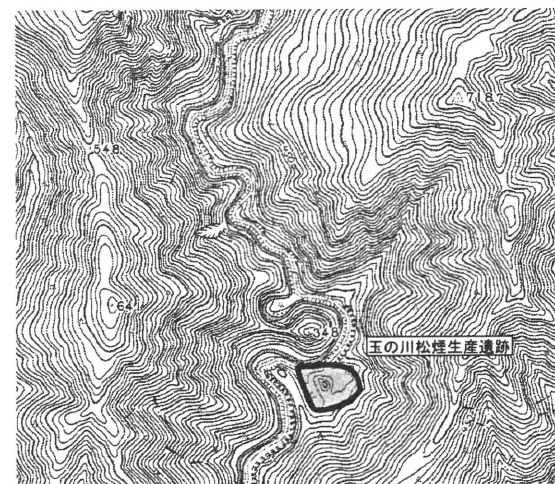
慈尊院周辺の遺跡



扇子畑石斧出土地



三味塚古墳群



玉の川松煙生産遺跡

県教育委員会の調査

県教育委員会の調査一覧

NO.	遺跡名	調査件名	市町村名	座標値(旧座標)	調査年月日	調査原因	調査種類	調査面積	遺構/遺物	年代
1	田屋遺跡(トレンチ)①	00-256	和歌山市小豆島	X=-193.615.Y=-70.733	2001.0425	県道新設	試掘・確認調査	3㎡	竪穴?/瓦器1	古墳~中世
1	田屋遺跡 (1~12トレンチ)①	00-256	和歌山市小豆島 猪ノ子125-4他	X=-193.670.Y=-70.750	2001.1105~09/1112 ~16	県道	試掘・確認調査	52㎡	溝、あぜ/瓦、土師器、備前(32袋)	中世~近世
1	田屋遺跡①	00-256	和歌山市小豆島 猪ノ子・五ノ坪・塩谷	X=-193.700.Y=-70.750	2002.0304~0322	県道新設	試掘・確認調査	139㎡	溝/瓦、陶器、羽釜、土師器、粘土塊(コンテナ1)	中世~近世
1	田屋遺跡②	00-256	和歌山市小豆島 猪ノ子	X=-193.640.Y=-70.750	2002.0218~0311	県道新設	発掘調査	419.5㎡	溝、河川、竪穴/瓦器、土師器(コンテナ1)	古墳~近世
2	磯脇古墳群	01-58-23	和歌山市磯脇	X=-192.774.Y=-82.588	2001.1130	県道新設	確認調査	18㎡	/土器片	中世?
3	橋本王子	-	下津町橋本1084-1	X=-207.675.Y=-73.962	2002.0222	説明版設置	試掘・確認調査	1.3㎡	/近世瓦	近世
4	福田下遺跡	01-142	美里町福田119	X=-204.520.Y=-60.378	2001.1213~1217	防災施設	工事立会	22.5㎡	柱穴/瓦器、土師器(13袋)	13c~14c
5	岡村遺跡周辺	01-58-9	海南市岡田	X=-203.100.Y=-71.400	2001.1016	県道改良	試掘調査	24㎡	/瓦器、土師器、弥生土器(4袋)	弥生~中世
6	下佐々Ⅲ遺跡①-1	00-297	野上町下佐々	X=-204.900.Y=-62.900	2001.0611~0612	県道新設	発掘調査	71㎡	ピット/瓦器、土師器、縄文土器、サヌカイト(6袋)	中世、縄文
6	下佐々Ⅲ遺跡①-2	00-297	野上町下佐々	X=-204.750.Y=-62.600	2001.1031	県道工事	試掘調査	24㎡	/土師器、瓦器、サヌカイト、須恵器(4小袋)	中世
6	下佐々Ⅲ遺跡①-3	00-297	野上町下佐々	X=-204.911.Y=-63.009	2002.0117	県道工事	工事立会	-	-	-
6	下佐々Ⅲ遺跡②	00-316	野上町下佐々 軽戸瀬1015-6	X=-204.925.Y=-62.799	2001.0627	個人住宅	工事立会	5㎡	柱穴/土師器、瓦器(4袋)	古代末~中世
7	岡田Ⅱ遺跡	01-90	打田町西井坂 花井131-1、132-1	X=-193.40.Y=-60.88	2001.0820	分譲住宅	工事立会	20㎡	-	-
8	東田中遺跡	00-333	打田町打田八王子1077-43	X=-192.850.Y=-57.770	2001.0817	個人住宅	工事立会	4.5㎡	自然河川/	-
9	北勢田遺跡	01-141	打田町北勢田981	X=-190.680.Y=-56.95	2001.1030	倉庫新築	工事立会	2㎡	/弥生土器?1、サヌカイト1	弥生?
10	紀伊国分寺跡	99-227	打田町東国分	X=-192.127.Y=-60.485	2001.1207	污水管埋設	工事立会	50㎡	-	-
11	粟島遺跡	01-157	打田町東大井上水304-2	X=-192.000.Y=-57.995	2002.0117	住宅新築	工事立会	5㎡	石敷き/土師器、磁器、ガラス瓶、土管(2袋)	近代
12	王城跡	01-36	打田町古和田 千禮ノ木434-2、434-7	X=-191.720.Y=-59.520	2001.0712	工場(倉庫)	工事立会	4.5㎡	-	-
13	北長田遺跡	00-186	粉河町北長田 野末37	X=-190.760.Y=-55.600	2001.0510~0511 2001.1106/1121~	工場新築	工事立会	130㎡	ピット、土坑/須恵質鉢、土師器、サヌカイト(6袋)	中世
14	粉河寺遺跡①	00-243	粉河町粉河2787他	X=-190.940.Y=-54.585	2002.0208	防災施設	工事立会/発掘調査	4㎡/172.5㎡	埋桶、井戸、溝等/磁器、瓦、土師器、瓦器、鉄、銅銭	中世、近世
14	粉河寺遺跡②	00-243	粉河町粉河2787他	X=-191.085.Y=-54.649	2002.0129	防災施設	工事立会	10.1㎡	/近世瓦	近世
15	上尾遺跡	01-51	桃山町調月 山ノ上660-1-2	X=-196.869.Y=-60.545	2001.0903	個人住宅	工事立会	3㎡	溝/丸瓦1	近世
16	城の段遺跡	01-206	桃山町調月 城之段519-1	X=-196.642.Y=-60.539	2002.0108	事務所新築	工事立会	-	-	-
17	平池遺跡	01-49	貴志川町長原大前587他	X=-198.403.Y=-64.024	2001.1031	宅地造成	工事立会	180㎡	-	-
18	最上遺跡	99-258	桃山町最上739-2	X=-196.860.Y=-60.055	2001.0424~0427	県道新設	発掘調査	240㎡	土坑、掘立柱建物/須恵器、土師器(コンテナ3)	8c初
19	元遺跡①	00-328	桃山町元914-7	X=-195.400.Y=-195.800	2001.0731,0801	個人住宅	工事立会	7.48㎡	溝1条他/弥生土器、中世遺物(10袋)	弥生後期
19	元遺跡②	01-12	桃山町元 高坊768-2	X=-195.560.Y=59.170	2001.0604	個人住宅	工事立会	5㎡	溝/土師器(1袋)	8c以降
19	元遺跡③	01-69	桃山町元 加和906、909-5	X=-195.85.Y=-59.35	2001.1011	個人住宅	工事立会	3.2㎡	井戸状土坑、土坑/瓦、磁器、陶器(2袋)	18c

県教育委員会の調査一覧

NO.	遺跡名	調査件名	市町村名	座標値(旧座標)	調査年月日	調査原因	調査種類	調査面積	遺構/遺物	年代
20	根来寺坊院跡	01-75	岩出町根来2277	X=-189,749.Y=-62,283	2001.0719,26,27,0803	治山工事	工事立会	110㎡	石垣、ピット状遺構/土師器、備前、青磁他	室町
20	根来寺坊院跡	-	岩出町根来	X=-189,355.Y=-62,026	2001.1024	治水事業	踏査	-	-	-
21	柏原遺跡	98-145	橋本市柏原	X=-186,650.Y=-37,800	2002.0219~0315	高速道路	確認調査	104㎡	竪穴住居跡、墓、柱穴他/弥生土器、須恵器、瓦器他	弥生~中世
20	金剛峯寺遺跡①	01-128	高野町高野山566	X=-198,40.Y=-37,05	2001.0926	増築工事	工事立会	19.5㎡	溝、柱穴、礎石?/磁器、陶器、土師器、瓦質土器(3袋)	中世or近世
22	金剛峯寺遺跡②	01-220	高野町高野山272	X=-198,569.Y=-38,605	2002.0227	個人住宅	工事立会	45㎡	-	-
22	金剛峯寺遺跡③	01-280	高野町高野山49-7	X=-198,107.Y=-35,912	2002.0227	個人住宅	工事立会	4㎡	-	-
22	金剛峯寺遺跡④	01-39	高野町高野山674-1	X=-198,100.Y=-38,150	2001.0605	個人住宅	工事立会	30㎡	/陶磁器(1袋)	近代
23	神野々Ⅱ遺跡	01-59	橋本市神野々809	X=-187,000.Y=-39,200	2001.0710	トイレ新築	工事立会	6㎡	-	-
24	応其Ⅰ遺跡	01-83	高野町町応其板橋90-2	X=-187,550.Y=-39,360	2001.0731	個人住宅	発掘調査	21㎡	溝/	-
25	名古屋Ⅰ遺跡	01-110	高野町町名古屋住貝215-5	X=-187,823.Y=-39,715	2001.1120	集合住宅	工事立会	13.5㎡	-	-
26	渋田遺跡①	01-275	かつらぎ町西渋田金の手256	X=-191,287.Y=-48,990	2002.0305	個人住宅	工事立会	3㎡	-	-
26	渋田遺跡②	01-114	かつらぎ町島43	X=-191,300.Y=-48,300	2001.0830	個人住宅	工事立会	2㎡	土坑/	-
27	慈尊院中小路地先遺跡	-	九度山町(河川敷内)	X=-189,000.Y=-41,270	2002.0325	-	分布調査	-	五輪塔台座	近世
28	宮崎城跡	01-42	有田市野127	X=-213,000.Y=-79,300	2001.0618	個人住宅	工事立会	60.5㎡	土坑/伊万里、土師器(4袋)	近世、中世?
29	旧円満寺跡	01-95	有田市東神田258-2	X=-213,087.Y=-75,423	2001.0913	個人住宅	工事立会	1㎡	/土器、瓦各1(1袋)	-
30	中井原遺跡	01-198	金屋町中野109-1	X=-214,457.Y=-68,480	2001.1206	個人住宅	工事立会	14.6㎡	ピット/瓦器	13c
31	弁天山古墳	現状変更	日高町荊木	X=-230,527.Y=-77,689	2001.1126~2002.0111	史跡整備	発掘調査	31㎡	横穴式石室/須恵器、鉄製品等	6c
32	徳蔵地区遺跡①	01-173	南部川村徳蔵	X=-246,470.Y=-62,215	2001.1015~1019	村道新設	発掘調査	32㎡	小溝、水田/縄文土器、土師器、磁器、鉄片、陶器(コンテナ1)	縄文~中世
32	徳蔵地区遺跡②	01-173	南部川村徳蔵	X=-246,500.Y=-62,227	2002.0123	村道新設	工事立会	25㎡	-	-
32	徳蔵地区遺跡③	00-101	南部川、南部町徳蔵	X=-246,436.Y=-62,331	2002.0304	国道、県道新設	試掘、確認調	65㎡	/土師器	弥生~近世
32	徳蔵地区遺跡④	97-327	南部川村徳蔵	X=-246,480.Y=-62,234	2002.03	高速道路	工事立会	110㎡	-	-
32	高田土居城跡⑤	00-118	南部町気佐藤	X=-246,655.Y=-62,280	2002.0131	河川改修	確認調査	12㎡	外堀/	室町~
33	大塚遺跡①	00-531	南部町東吉田	X=-246,820.Y=-62,200	2001.0720	道路新設、改良	工事立会	1.8㎡	自然河川/	-
33	大塚遺跡②	01-136	南部町東吉田 梅田208-1	X=-246,850.Y=-62,218	2001.1112	下水道埋設	工事立会	20㎡	/土師器7	中世?
33	大塚遺跡③	01-168	南部町東吉田 大塚141-1	X=-247,080.Y=-62,210	2001.1212	マンション建設	発掘調査	36㎡	竪穴住居、溝/弥生、土師器、陶磁器(約20点)	弥生~近世
33	大塚遺跡④	00-101	南部町東吉田	X=-246,948.Y=-62,134	2002.0304	県道新設	確認調査	39㎡	溝、土坑状遺構/弥生土器、須恵器、土	弥生~近世
34	田ノ口遺跡①	-	白浜町富田	X=-260,996.Y=-54,547	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	/須恵器、土師器、製塩土器	8c後半
34	栗ヶヶ城跡②	-	白浜町富田	X=-262,190.Y=-54,590	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	堀切、郭/備前、投石、礎石	中世
34	大古Ⅱ遺跡③	-	日置川町大古	X=-269,011.Y=-49,873	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	/弥生土器、土師器	弥生時代以降
34	安宅城跡④	-	日置川町安宅	X=-268,899.Y=-49,508	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	-	-
34	駒爪城跡⑤	-	すさみ町周参見	X=-270,131.Y=-46,640	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	-	-
34	立野遺跡⑥	-	すさみ町周参見	X=-271,499.Y=-45,204	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	-	-
34	⑦	-	すさみ町江住	X=-275,638.Y=-36,676	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	-	-
34	⑧	-	田辺市上方呂	X=-260,780.Y=-56,090	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	-	-
34	⑨	-	田辺市上地松原	X=-251,388.Y=-54,575	2001.0529~0531	高速道路	分布調査	-	/弥生土器or土師器1	弥生時代以降
35	川関遺跡	01-58-8	那智勝浦町天満29,42-3	X=-261,867.Y=-6,204	2001.0827~0907	町道工事	発掘調査	99㎡	柱穴、土坑、溝/山茶碗、瓦器、磁器、土師器、鉄製品(コンテナ2)	中世

1. 田屋遺跡 (調査件名 00-256)

種別 ①確認調査／②本発掘調査

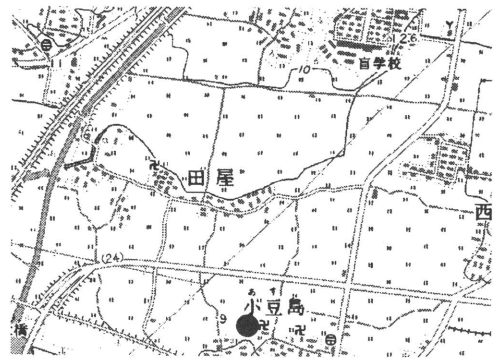
所在地 ①和歌山市小豆島字猪ノ子・五ノ坪・塩谷

②和歌山市小豆島字猪ノ子

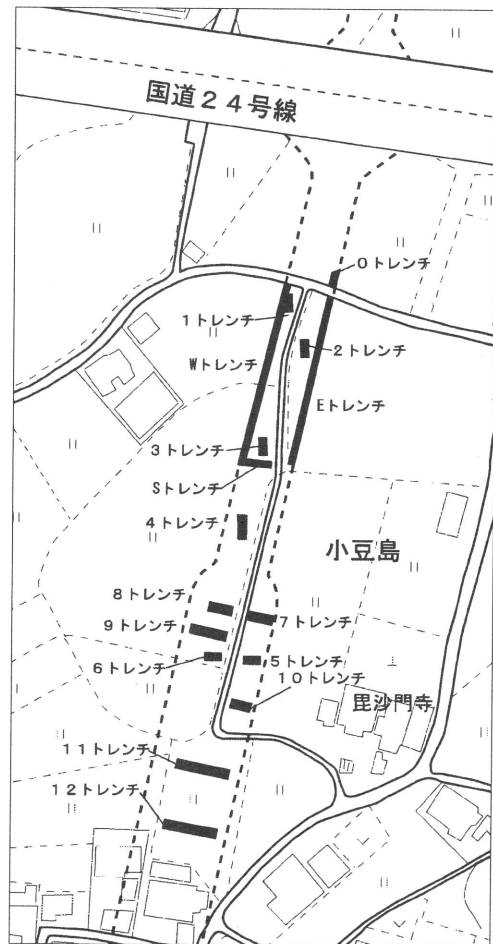
＜調査の経緯＞県道紀伊停車場田井の瀬線建設に伴う事前の試掘確認調査(①)と擁壁工事部分の本発掘調査(②)。①では0～12トレンチ、②ではEトレンチ(東側擁壁)、Wトレンチ(西側擁壁)、Sトレンチ(南側水路付替部分)を設定。②では2つの遺構面(5層上面、7層上面=地山面)を調査。

＜調査成果＞基本層序 各調査区とも土層堆積状況は平成13年度(財)県文化財センター調査地の基本層序に対応。1層現代耕作土、2層近現代耕作土(5Y4/2灰オリーブ色シルト、鉄分)、3層近世遺物包含層(2.5Y5/2暗灰黄色シルト、鋤溝、鉄分、2層に細分でき下部(3-2層)はマンガン多い)、4層中世(～近世)遺物包含層(2.5Y6/3にぶい黄色シルト、マンガン)、5層中世遺物包含層(2.5Y3/2黒褐色シルト)、6層中世遺物包含層(2.5Y5/2暗灰黄色シルト、瓦器・マンガン・鉄分)、7層地山(10YR5/8黄褐色粘土)、8層流路堆積層(10YR5/3にぶい黄褐色シルト)。

遺構・遺物 ①の概要。0トレンチ(3㎡) 竪穴状の落ち込み検出。1トレンチ(4×2m) 深1mでセンター調査地の流路の延長を検出。流路上面で古墳時代前期の土師器片出土。2トレンチ(4×2m) 2層上面で近世の遺構1(土坑)・2(溝)、4層上面で近世の遺構3(土坑)・4(鋤溝)、5層上面で遺構19(南北方向畦畔、畦畔基部は6層上面)検出。7層上面(地山面、深0.9m)で南北方向に平行する溝(遺構22・23・24)を検出。遺構23上部に炭化物が集中。遺構22・23埋土は暗灰黄色シルトで、遺構23を切る遺構24は灰褐黄色シルト。これらは古代～中世の遺構か。3トレンチ(4×2m) 2層～3層上面で近世の土坑や鋤溝を検出。地山面(深0.9m)で遺構28(土坑)を検出。4トレンチ(6×2m) 2層上面で近世以降の溝など(遺構5～8)を検出。深1.1mで地山。5トレンチ(4×2m) 3層上面で近世の南北方向小溝2条(遺構25・26)を検出。地山(深1.1m)まで掘削したが、他の遺構は未検出。6トレンチ(4×2m) 3層上面で遺構9～18(近世東西方向鋤溝)を検出。4層上面(深0.6m)で遺構20(南北方向溝)と遺構21(東西方



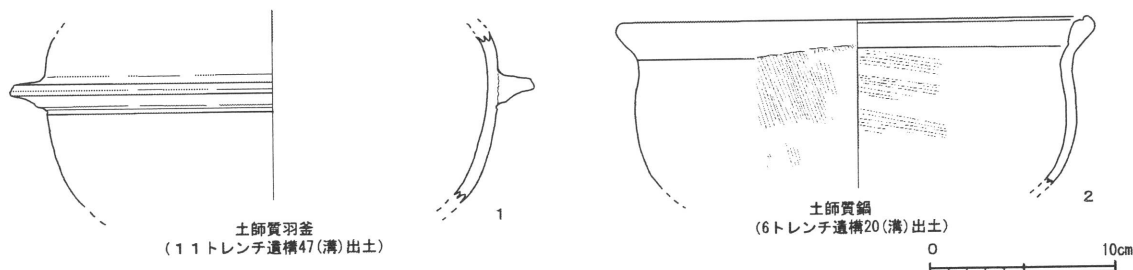
遺跡位置図



調査位置図

向畦畔)、遺構27(遺構21上のピット)を検出。遺構20から中世瓦や土師器、備前焼陶器が出土。7トレンチ(6.5×2m)地山(深1.1m)まで掘削し、遺構は未確認。8トレンチ(7×2m)8層上面(深1.2m、流路堆積)で遺構49(不明瞭な土坑)とピット(遺構48)を検出。9トレンチ(10.6×2m)3層上面で近世の溝(遺構29)を検出。4層上面(深さ0.7m)で遺構30(南北方向溝)と遺構31(東西方向小溝)、遺構30の西に遺構32(畦畔状堆積)を検出。10トレンチ(6.6×2m)4層上面(深さ0.6m)まで掘削したが遺構は未検出。深掘した結果、深1mで地山。11トレンチ(20×2m)3層上面で遺構33・34(近世南北方向溝)を検出、遺構33から多量の粘土塊が出土。4層上面(深0.6m)で中世の溝やピット(遺構35~45・47)を検出。遺構35と47は南北方向溝で、遺構47は遺構34に切られ、礫や中世の瓦・常滑焼甕・土師器羽釜など出土。遺構39は木質と礎石状の石を検出。12トレンチ(18.8×2m)3層上面で近世の南北方向溝を2条検出。4層上面(深さ0.6m)で中世遺物を含む遺構46(南北方向溝)を検出。①では中央部は遺構がなく、北半と南半は連続せず、遺物の様相も北半は古墳時代前期・後期、古代、中世の遺物が出土し、これまでの田屋遺跡と連続。南半は中近世遺物が主体で、中近世寺院が近くに存在する可能性が高く、調査地南東側の毘沙門寺が中世まで遡るか。

②の概要。5層上面Eトレンチ北端部で2トレンチに続く中世の畦畔(遺構101)、Sトレンチ東端で溝(遺構102)を検出。7層上面(地山面)Eトレンチ北端部で平行する溝(遺構103・104・115)を3条検出。遺構104と115埋土は暗灰色シルトで、遺構103は灰色粘土。Eトレンチ南端部の遺構105とWトレンチ南端部の遺構109は遺構104・115と同様の埋土の溝。これらの溝は遺物がほとんど出土しないが、中世遺構と推定。溝以外に土坑やピットをわずかに検出(Eトレンチ遺構106・107・108、Wトレンチ遺構111、Sトレンチ112・113・114)。Eトレンチ北端部では遺構115の北側に6層上面遺構116(溝)検出。遺構118は埋土が地山と類似するが土層断面から壁溝をもつ住居跡か。北端や東西端が調査区外でプランは不明。この遺構118の中央部で焼土坑(遺構117)を検出。遺構117は焼土が盛り上がり、上部は焼土と焼土塊が多量に充填。下部は凹み、焼土を少量含む埋土で、住居内の竈(または炉)の可能性のある遺構。遺構118・117に伴う遺物がほとんどないが、周囲から古墳時代前期の土師器が多く出土。ただこの時期の竈の類例はなく、時期や遺構の評価は慎重に検討する必要。Wトレンチ北半部では、県文化財センター調査地の流路の続き(遺構110)を検出。遺構110上面からは中世の土師器が多く出土し、最終埋没時期は中世。②については、5層上面で畦畔と溝は検出できたもののその他明瞭な遺構は未検出。7層上面(地山面)では、溝群(中世)、住居状遺構(古墳時代?)を検出。溝は遺構105を除いてほぼ同方向に流れる一連の機能の溝。遺構110(流路)にこれらの溝が取り付くかどうかは不明。溝以外には明瞭な遺構はほとんど未確認。住居状遺構118と竈状遺構117はともに古墳時代前期の遺構の可能性があり、センター調査地で検出された古墳時代前期の竪穴住居との関連を含めて時期や構造など要検討。



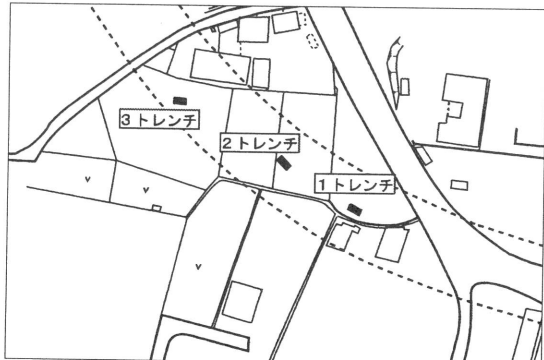
遺物実測図

2. 磯脇遺跡

(調査件名 01-58-23)

種別 試掘・確認調査

所在地 和歌山市磯脇

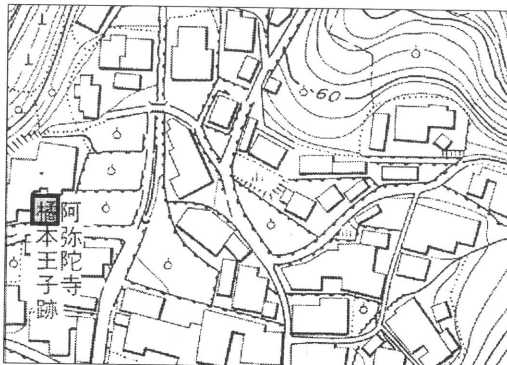


調査位置図

3. 橋本王子

種別 工事立会

所在地 下津町橋本 1084-1



調査位置図

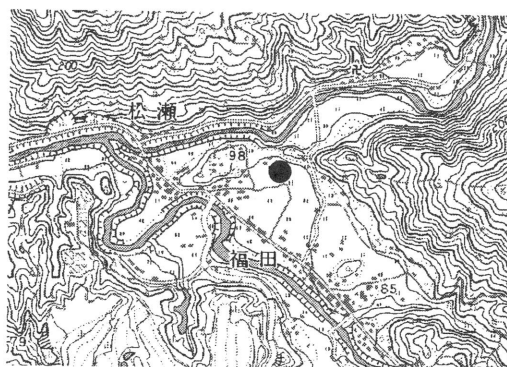
4. 福田下遺跡 (調査件名 01-142)

種別 立会調査

所在地 美里町福田119

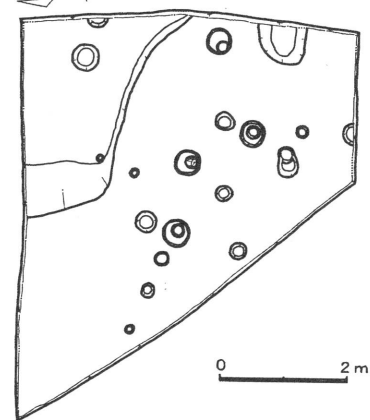
<調査の経緯> 防火水槽設置に伴う立会調査である。2月13日の工事立会中遺構が発見されたため、美里町職員他とともに同17日に記録保存の措置を行った。

<調査成果>遺構・遺物 表土から30cmほどで遺構面に達し、13~14世紀の柱穴を多数検出したが、建物の復元にまでは至らなかった。遺物は、瓦器、土師器が出土した。柱穴5からは13世紀後半の瓦器2個体が出土している。

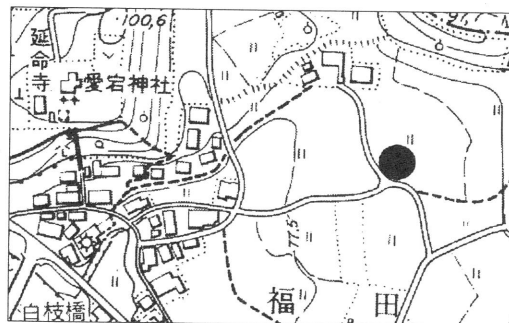


遺跡位置図

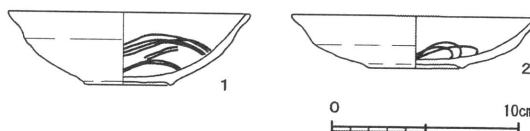
包含層 (瓦器・土師器片含む) 暗茶褐色土
灰褐色粗砂シルト (マンガン粒含む)



遺構平面図



調査位置図



柱穴5出土遺物実測図

5. 岡村遺跡隣接地 (調査件名 01-58-9)

種別 試掘調査

所在地 海南市岡田

〈調査の経緯〉県道海南岩出線改良工事実施地は岡村遺跡の南端に隣接した地域で、埋蔵文化財を包蔵する土地である可能性が考慮されたため、県教育委員会と事業者の間で協議を行い、文化財保護法第58条の2の規定に基づき、事業者の協力を得て県教育委員会が試掘調査を実施した。

〈調査の成果〉 調査区の設定 調査区は、道路改良予定地内に幅1.5m、長さ4mのトレンチを4ヶ所設定し、東から順に1～4トレンチとした。

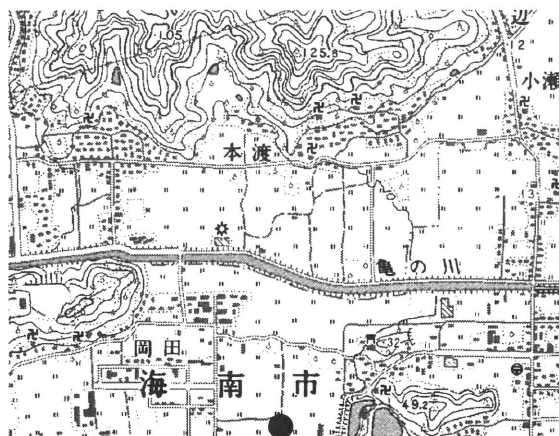
基本層序 次の4層に分けられる。1層は耕作土。2層は床土(黄灰色粘土)。3層は6つに細分化し、上から3a, 3b, 3c, 3d, 3e, 3f層とする。3a層は灰褐色粘土。3b層は黒灰色粘土。3c層は灰色粗砂。3d層は有機質を含んだ灰色粘土。3e層は青灰色砂質土。3f層は黒灰色粘土。4層は柔らかい青灰色粘土層である。

第1・4トレンチでは地表から約80～100cmの深さでも暗灰色の砂泥が堆積しており、そのあたりが湿地であったことを示す。2・3トレンチの南・西へ傾斜する基盤層と思われる黄青灰色土も軟弱で、アシの根のような有機物が多く観察でき、湿地もしくは自然河川の傾斜部に相当する部分と考えられる。

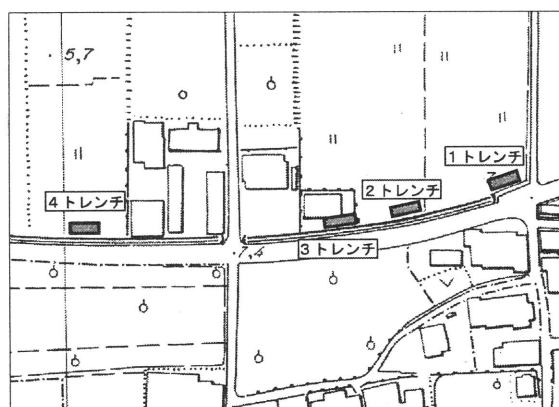
遺構・遺物 遺構は検出できなかった。遺物は第2トレンチで比較的多数出土したが、いずれも小破片で完形に復せるものはない。他のトレンチでは第4トレンチで弥生土器が1片出土したのみであるので、ここでは第2トレンチの状況を記述する。

床土の下に、14世紀前半のものと思われる瓦器碗や土釜片を包含する灰褐色粘土層(3a層)、その下には古墳時代前期の土器片を包含する黒色粘土層(3b層)、さらにその下には弥生時代中期および古墳時代の土器片を包含する灰色粗砂層(3c層)が堆積していた。

所見 トレンチ内の堆積状況から当該工事予定地域は、南側の山塊と岡村遺跡の所在する微高地の間に形成された自然河川もしくは湿地部分に相当すると考えられ、遺構が発見される可能性はほとんどないと思われる。この湿地もしくは自然河川が完全に埋没したのは14世紀以降で、その部分が水田として開発されたのも14世紀以降のことと見ることができる。



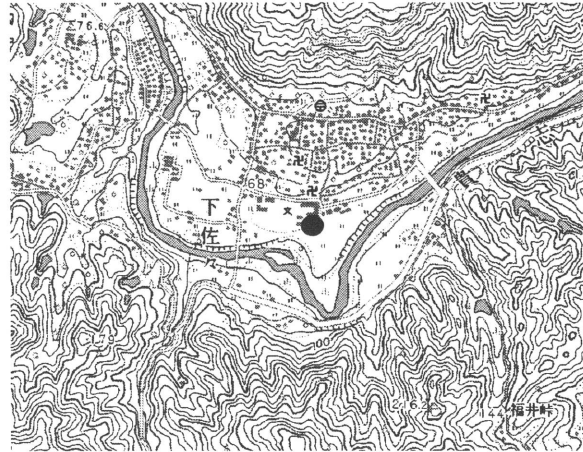
遺跡位置図



調査位置図

6. 下佐々Ⅲ遺跡 (調査件名①00-297、②00-316)

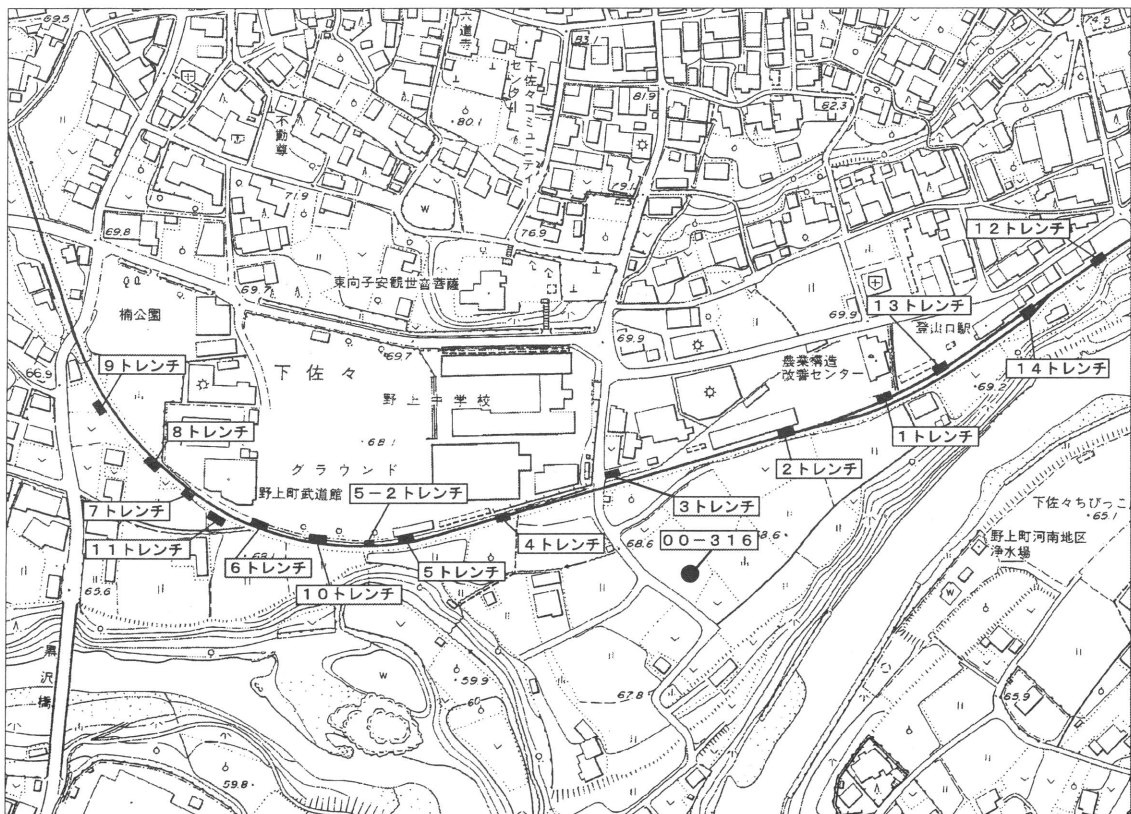
- 種別 ①-1 試掘調査 (範囲確認調査)
 -2 確認調査
 -3 立会調査
 ②立会調査
- 所在地 ①海草郡野上町下佐々地内
 ②野上町下佐々字軽戸瀬 1015-6



遺跡位置図

①00-297

<調査の経緯> 当遺跡は、貴志川右岸の舌状に張り出した河床から高さ約10mの段丘上に立地し、この段丘は比較的広い平坦面を有する。現在周辺は水田地帯で、古くから縄文時代の石鏃等が採集されていたようである。今回の調査地は旧野上鉄道の線路部分にあたり、県道建設工事に伴う事前の範囲確認調査及び試掘・確認調査を実施した。かつて中央付近を南北に通る農道建設に伴う発掘調査では、縄文時代の土坑や古代末～中世の掘立柱建物4棟などが検出されている(野上町教委1985『下佐々Ⅲ遺跡発掘調査概要』)。調査区は包蔵地の東西への広がりを確認するため、中央の農道より西側に4～9・5-2トレンチ(2×3.5m、計7箇所)、東側に1～3・12～14トレンチ(2×3.5m、計6箇所)を設定した(①-1)。また、道路工事区間内の遺跡内で特殊円形水路工事に係わる事前の確認調査として10・11トレンチ(2×3



調査位置図 (S=1/5000)

m、計2箇所)を設定した(①-2)。

<調査の成果> 基本層序 線路敷設用の盛土・耕作土・床土の下で、1・7～9・11～13トレンチにおいて遺物包含層を確認した。この他のトレンチでは遺物包含層は認められなかった。1・10・12トレンチを除く各トレンチでは表土下0.3～0.9mで橙色シルトの地山を確認した。1トレンチの遺物包含層からは瓦器・焼土壁が出土した。7～9トレンチでは瓦器・土師器を含むオリーブ色の砂礫混じりシルト層を確認した。7トレンチではこの包含層の下に縄文土器の細片・サヌカイト剥片を含む暗オリーブ褐色シルト層が認められた。11トレンチでは、7～8トレンチの遺物包含層に対応する層が確認でき、石器素材のサヌカイト片が出土した。12トレンチでは表土下1mで中世遺物を含む包含層が3層認められ、少量の遺物が出土した。ただしこれらはいずれも小片で周囲より流入したものと考えられる。13トレンチでは表土下0.7mで1トレンチの遺物包含層と類似した層が認められたが、遺物は出土していない。5・5-2トレンチでは、遺物包含層は確認できないが地山面で遺構を確認した。

遺構・遺物 5トレンチでは地山面で遺構1～5を検出した。遺構3・4は炭・土師器片を含むピットである。工事に伴う掘削断面で、遺構3から東側5.4mの位置に遺構6、遺構6から東側4.0mの位置に遺構7を確認した。やや離れているが共に径約0.3mのピットであり、埋土は黄灰色である。遺構2・5は落ち込みで、遺構であるのか判然としない。5-2トレンチでは柱穴を3箇所確認した。柱痕は径約0.2m、柱穴は径0.3～0.4mである。3つの柱穴は近接しており、組み合わせ等は不明である。12～14トレンチからは遺構は確認できなかった。11トレンチでは、遺物包含層の下面(表土下0.5m)で2基の遺構(土坑・ピット)が検出できた。一部掘削をおこなったが遺物は出土せず、遺構の時期は不明である。

所見 5・5-2・11トレンチで遺構を検出し、下佐々Ⅲ遺跡の範囲は従来より北西に広がるものと考えられる。7～9・11トレンチでは、中世と縄文時代の遺物包含層を確認したが、遺物の量はごく微量であり、周辺の遺跡地から流れ込んだものと考えられる。下佐々Ⅲ遺跡は2・3トレンチの方向へは広がらないと考えられるが、そのさらに東側の1・12・13トレンチにおいて中世の遺物が出土する包含層が認められるが、これらの遺物は周囲から流入したと考えられるため、当調査地は遺跡の範囲に含まれないと判断できる。

②00-316

<調査の経緯> 浄化槽埋設工事に伴う立会調査を実施した。遺構面を検出した段階で遺構平面図を作成し、その後掘削工事終了後に土層断面図を作成した。

<調査成果> 基本層序 次の4層に分けられる。1-1層は現代の盛土、1-2層は耕作土、1-3層は床土。2層は黒褐色の中世遺物包含層。3-1・2層は黄褐色～褐色のシルト層の堆積。地山とも考えられたが若干土壌化しており、周辺で確認されている縄文時代に相当する堆積の可能性はある。4-1・2層は黄褐色シルトの地山である。

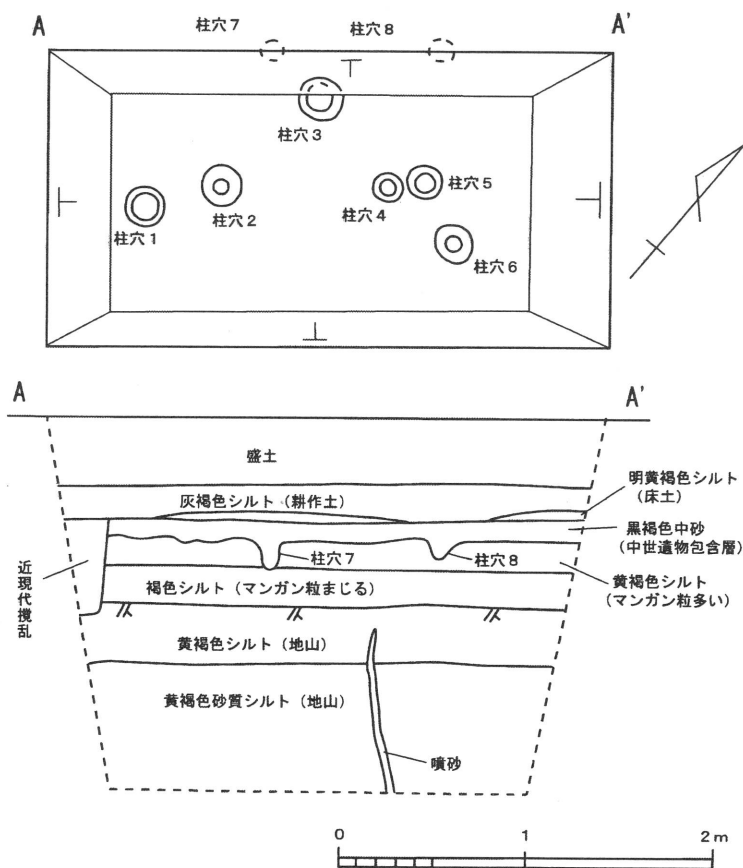
遺構・遺物 中世の遺物包含層(2層)の下面で柱穴を6基(柱穴1～6)検出した。また断面観察により柱穴が2基(柱穴7・8)確認でき、計8基を検出できたことになる。

柱穴1・5・7・8は2層と同じ黒褐色の埋土(炭化物を含む)で2層下面遺構と考えられる。柱穴2・3・4・6は地山ブロックを含む褐灰色の埋土で、これらを3-1層上面遺構と考えて、2層下面遺構とは時期差がある可能性がある。

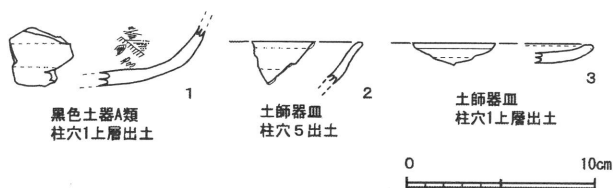
遺物は、2層の遺物包含層から土師器片・瓦器片(古代末～中世)が多く出土したほか、縄文土

器と思われる破片も1点出土している。柱穴1・4・5からは土師器片が数点出土し、このうち柱穴1からは古代末の黒色土器(A類) 椀片が出土した。この黒色土器は、内面が黒化し、ハケ調整・ミガキ調整が認められる。しかし柱穴1は2層下面遺構(中世)と考えられ、この黒色土器が柱穴の時期を示すものとはいえない。

所見 2時期に分けられる可能性がある柱穴群が検出でき、西隣の農道部分の調査区で検出された平安時代と鎌倉時代の掘立柱建物が東側へ広がることが確認できた。周辺は平坦面が広がり、旧野上鉄道敷地内で検出された柱穴を含めて周囲にはさらに多くの掘立柱建物が存在していることが想定できる。



トレンチ平面図・断面図



遺物実測図

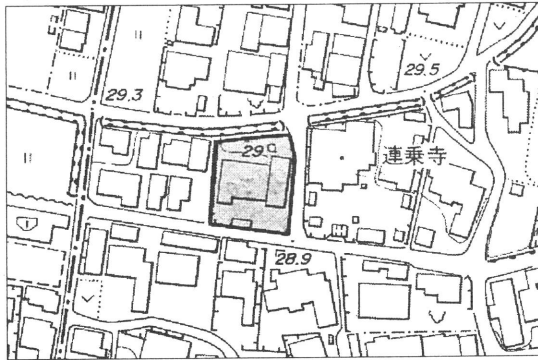
トレンチ・遺物実測図(00-316)

7. 岡田II遺跡

(調査件名 01-90)

種別 工事立会

所在地 打田町西井阪字花井 131-1 他



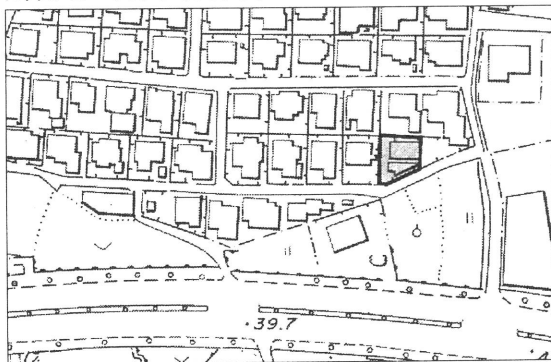
調査位置図

8. 東田中遺跡

(調査件名 00-333)

種別 工事立会

所在地 打田町打田字八王子 1077-43



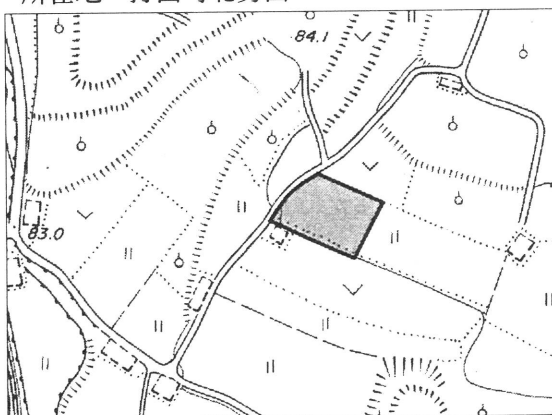
調査位置図

9. 北勢田遺跡

(調査件名 01-141)

種別 工事立会

所在地 打田町北勢田 9 8 1



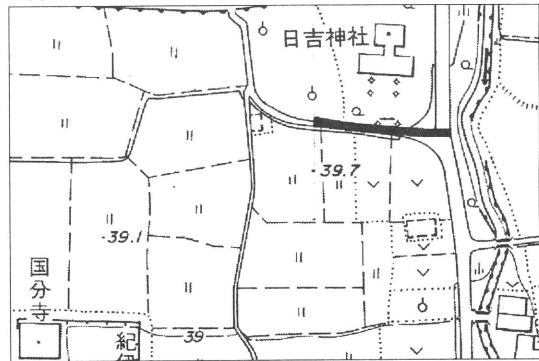
調査位置図

10. 紀伊国分寺跡

(調査件名 99-227)

種別 工事立会

所在地 打田町東国分



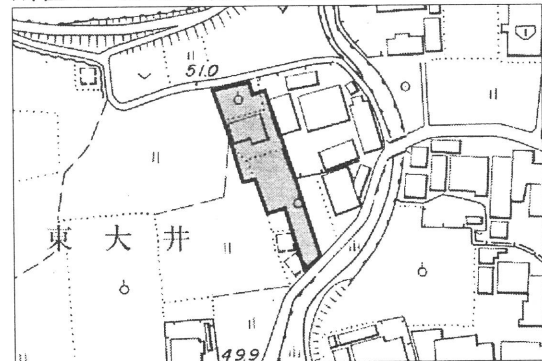
調査位置図

11. 粟島遺跡

(調査件名 01-157)

種別 工事立会

所在地 打田町東大井字上水 3 0 4 - 2



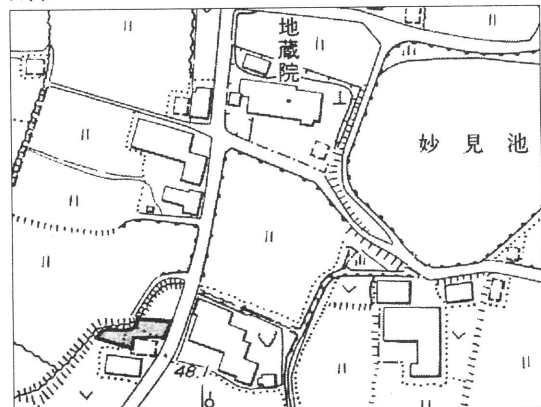
調査位置図

12. 王城跡

(調査件名 01-36)

種別 工事立会

所在地 打田町古和田字千檀ノ木



調査位置図

1 3 . 北長田遺跡 (調査件名 00-186)

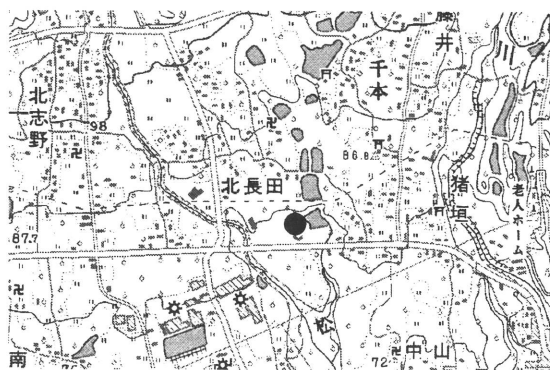
種別 工事立会

所在地 粉河町北長田字野末 37

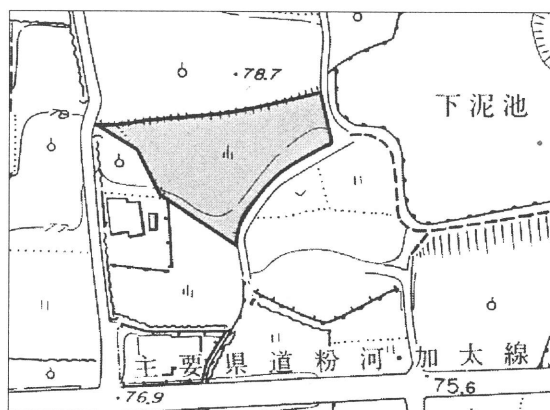
〈調査の経緯〉 当遺跡は北から南へと流れる松井川の東側に位置する。現在遺跡の東側には溜池があり、本来は谷地形であったと考えられ、遺跡は東西を谷地形に挟まれた舌状の台地上に立地している。今回の調査は遺跡内における工事新築に伴う擁壁工事部分の立会調査である。調査方法は擁壁部分の外側にある水路を壊さないように、少し内側に幅1m×長さ約100mのトレンチ(1～3トレンチ)を設定した。

〈調査成果〉 基本層序 調査地東半の3・1トレンチでは、次の3層に分けられる。I層は耕土層。II層は黄褐色の床土層。III層は褐色の遺物包含層。さらにIII層は礫を含まないIIIa層と礫を含むIIIb層に細分でき、これらは土層の観察により調査地南端で古い水田の上に堆積していることが確認できる。したがってこの堆積は、水田造成にともなう改変がおこなわれた結果であると考えられ、おそらく付近に存在した遺物包含層が2次的に運び込まれたものであろう。IIIb層下面は地山である褐色の礫混じり層である。1トレンチの遺構はいずれもこの地山面上で検出したものである。調査地西半の2トレンチではII層とIII層間に遺物をわずかに含む黒褐色層が認められ、この層も水田造成などによる2次堆積層と考えられる。このようにこの付近では本来周囲にあった遺物包含層が水田造成などによってかなり動かされていることがわかる。

遺構・遺物 1トレンチの中央付近の地山面において、8基の遺構を検出。いずれも埋土が類似していることなどから、これらはおおむね同時期の所産であると推測する。遺構1・8・2・7は浅いピットで、遺構8は遺構1・2に切られている。遺構3は底部分に正置された板状の石材があり、柱穴の根石と考えられる。遺構6は柱穴状に垂直に掘り込まれている遺構である。遺構5は長方形を呈する土坑で、ほぼ垂直に掘り込まれている。遺構5の埋土中からは完形の土師器小皿や東播系須恵器播鉢、土師器数片、鉄滓、炭化物小片、サヌカイト剥片数片が出土した。この他1トレンチと2トレンチにそれぞれ一箇所ずつ旧水田の跡と思われる直線的な落ち込みが検出されたが、時期は不明である。遺構や遺物包含層から少量ながら遺物が出土しているが、いずれも細片ばかりで実測できたのは遺構5から出土した2個体のみである。図示した土師器小皿は、口縁部を横ナゲ調整し、底部は不調整である。東播系中世須恵器の播鉢は、小片であるが片口の部分が残存している。両者とも15世紀の所産であろう。

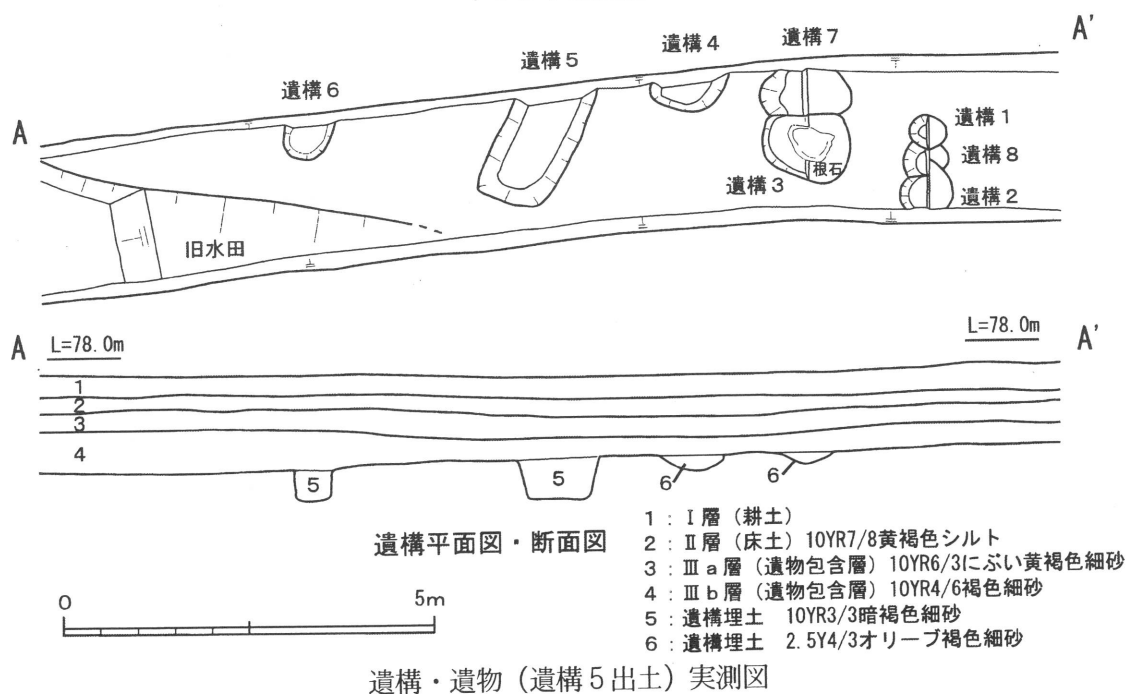
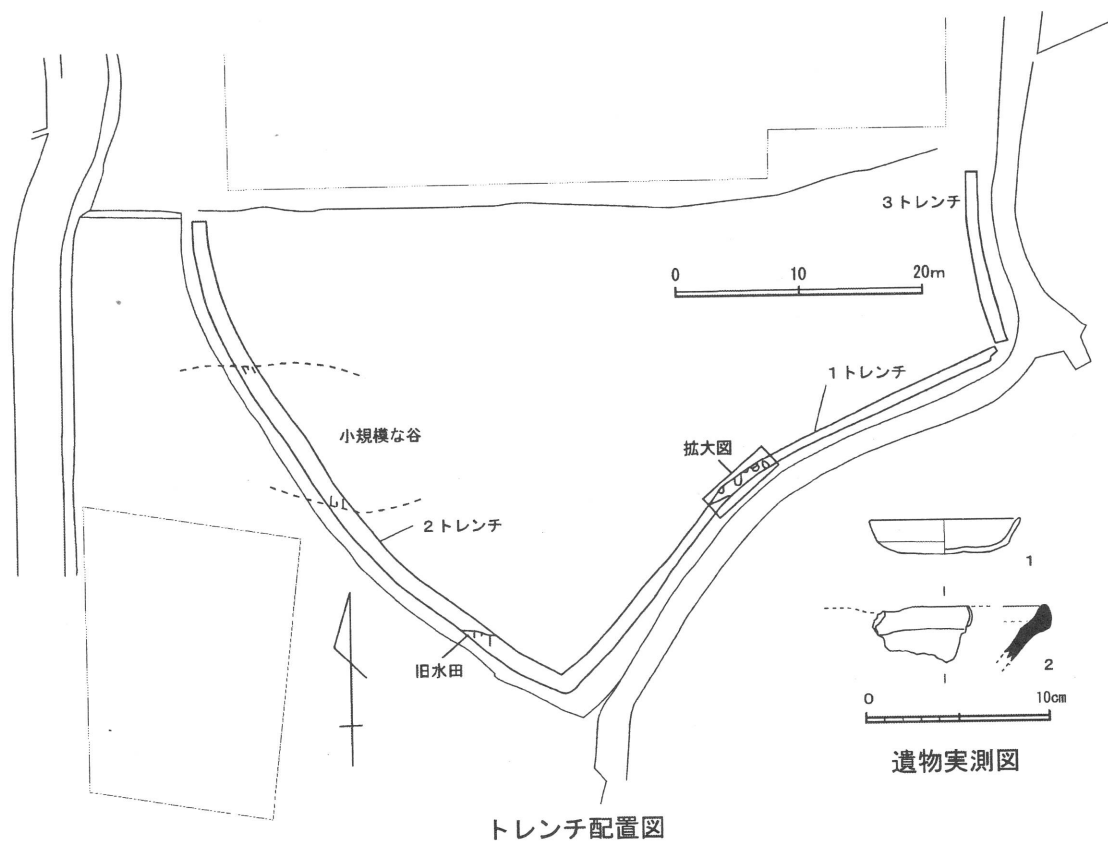


遺跡位置図



調査位置図

所見 北長田遺跡は『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』（和歌山県教育委員会1996）では縄文時代の散布地となっているが、今回の調査では積極的に縄文時代の所産と認定できる遺物は確認できなかった。一方、中世の遺構が確認でき、これらはまとまって検出できたことや柱穴と考えられる遺構があることから、当地には中世の集落があったと考えられる。また遺物包含層から弥生土器と思われる破片やサヌカイト剥片が数片出土したことから弥生時代の集落も近くに存在した可能性がある。



14. 粉河寺遺跡

(調査件名 00-243)

種別 ①工事立会・本発掘調査②工事立会

所在地 粉河町粉河2787番地 他



遺跡位置図

＜調査の経緯＞ 粉河寺境内で防災施設工事が施工されることになり、貯水槽工事部分について事前に立会調査を実施し、その結果に基づいて本発掘調査が行われた(①)。本発掘調査の成果は、粉河寺2002『重要文化財粉河寺大門保存修理に伴う修理工事報告書』((財)和歌山県文化財センター編)に詳しく掲載している。また大門周辺の配管工事部分では工事立会を実施した(②)。

＜調査成果＞ 基本層序 ①では、1層は表土。2層は近現代の盛土。3層は近世後半整地層の黄褐色粘土。4層は近世の暗灰褐色細砂。5層は中世～近世(天正期前後)の黒灰

色細砂で、5-1層、5-2層に細分した。6層は中世の褐灰色細砂。7層は中世の黄色粘土混灰黄色シルト。8層は地山。②では、上層は攪乱されて、攪乱以下は黄色礫層(地山か)で、大門はこの層の上に建っている。遺物は攪乱から近世瓦が出土するのみ。

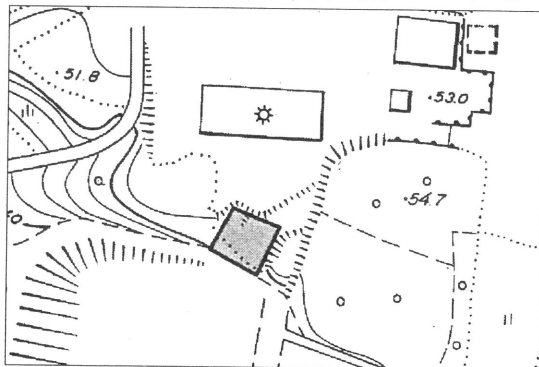
遺構・遺物 遺構面は3層・4層・5-1層・5-2層・6層・7層の各上面で計6面を検出した。このうち5-2層上面遺構は焼土を含み、天正期と考えられる。3・4層上面遺構は近世、6・7層上面遺構は中世である。遺構は未検出であるが、古代の遺物が遺物包含層から少量ながら出土している。

15. 上尾遺跡

(調査件名 01-51)

種別 工事立会

所在地 桃山町調月字山ノ上660-1-2



調査位置図

16. 城の段遺跡

(調査件名 01-206)

種別 工事立会

所在地 桃山町調月城之段519-1



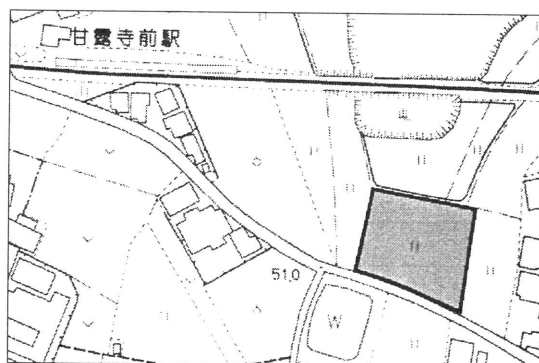
調査位置図

17. 平池遺跡

(調査件名 01-49)

種別 工事立会

所在地 貴志川町長原大前587、他



調査位置図

18. 最上遺跡 (調査件名 99-258)

種別 ①本発掘調査/②立会調査

所在地 桃山町最上 739-2

〈調査の経緯〉 今回の調査は、県道新設に伴う発掘調査である。平成11年度に県教育委員会が試掘調査を実施し、記録保存のための本発掘調査が必要な範囲を決定していたが、用地取得の事情によって、道路の法線が変更されていた。そのため実際の発掘区域が試掘調査時の設定より北側にずれることになった。

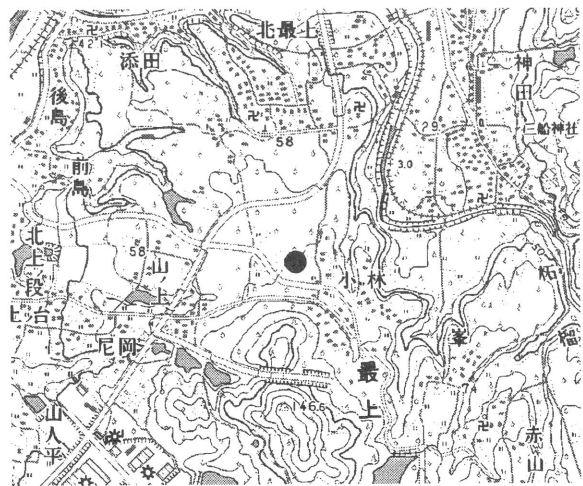
〈調査成果〉 北側の立会調査では、一部ピット群が検出されたが、形状から見て柱穴とは思えない。埋土の状況も本調査区とは異なっており、瓦器片らしい小片も認められるので、中世のピットの公算が大きい。以下では、多数の遺構、遺物が検出された南側の本発掘調査区について記述する。

基本層序 調査範囲の南側では、現代の水田耕作層・床土の直下が無遺物層となるが、北側では現代の床土の下に近世の水田耕作層が介在して無遺物層となる。遺構はすべて無遺物層上面で検出した。

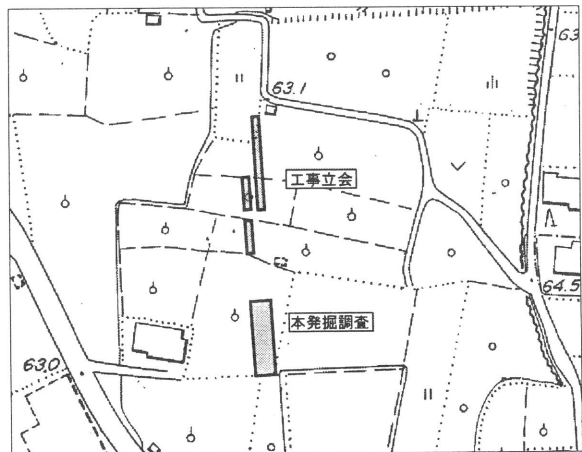
遺構・遺物 土坑状の遺構（以下、「土坑」とする。）11基、掘立柱建物2棟のほかピット状遺構12基を検出した。土坑3および

8は埋土中から瓦器片が出土しており、中世のものとみられる。その他の土坑は、いずれも埋土中から8世紀の土器を出土しているが、土坑9からは平城宮I様式に平行する（8世紀初頭）須恵器・土師器がコンテナ2箱分出土した。土坑9出土資料は完形品の比率が高く、円面硯・平瓶や様々な杯類など器種が豊富で基準資料として貴重である。掘立柱建物は、いずれも一部が調査区域内で見つかっただけで、全体の規模は不明である。南側の建物2は、心々間の距離が226・246cmの南北方向の柱穴の並び二間分を検出した。北側の建物16は、直角に配置された柱穴3基を検出したため、調査区を追加したところ、さらに2基の柱穴を検出できた。東西一間以上、南北二間以上の規模と推定できる。柱の心々間の距離は、南北201、261・東西227cmである。

いずれの建物も、柱穴の堀方は隅丸方形で60～80cmの規模で、深さは60cm程度遺存していた。痕跡から推定できる柱の太さは20cm程度である。それぞれの建物の柱穴堀方からは、瓦片や土器片が出土しているが、年代の特定できるものはない。ただし、瓦は近隣に所在する最上廃寺



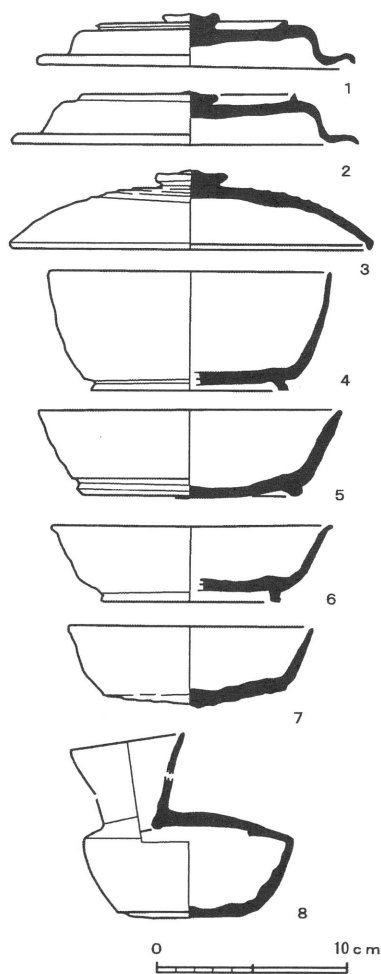
遺跡位置図



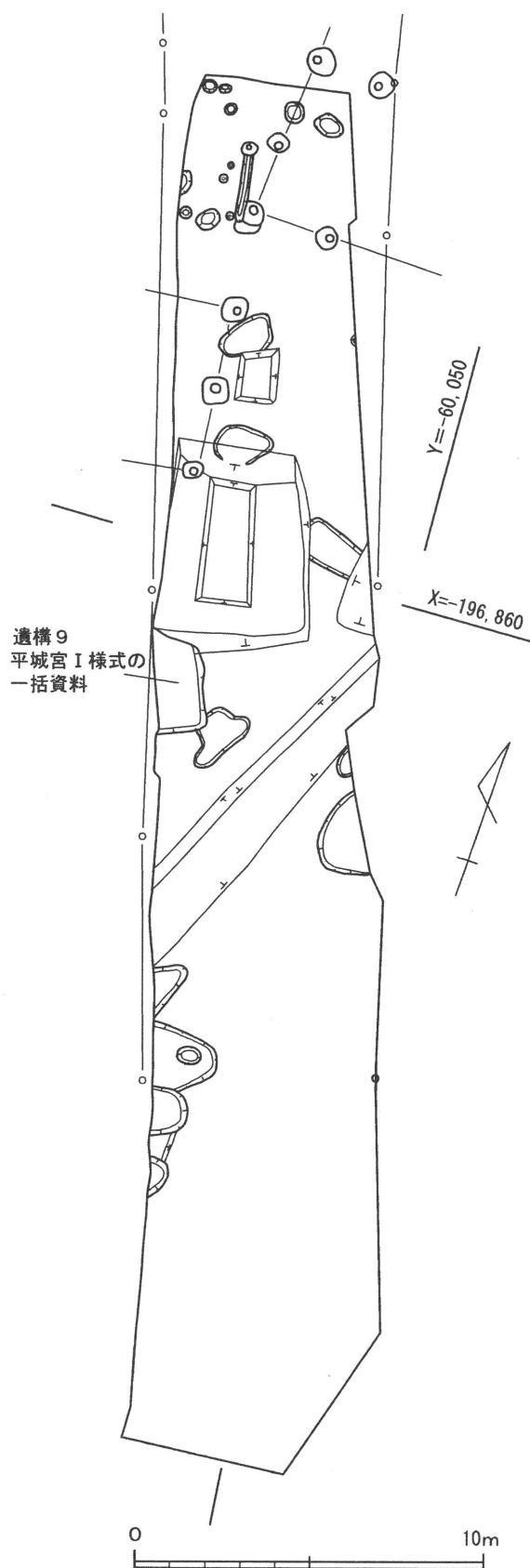
調査位置図

に使用されたものとみられるので、これらの建物は最上廃寺創建以降のものとして推定できる。

そうすると、今回検出された土坑からの出土遺物は、少数の中世遺物を除くと、ほぼ8世紀の初頭から前半に限定できるので、これらの建物も8世紀の前半に存続したものとみるのが妥当であろう。今回の発掘調査地点の南西約300mには、7世紀後半創建の最上廃寺が所在しており、今回発見された掘立柱建物は寺院周辺の集落の一部と位置づけることが可能であろう。



土坑9出土遺物実測図



遺構平面図

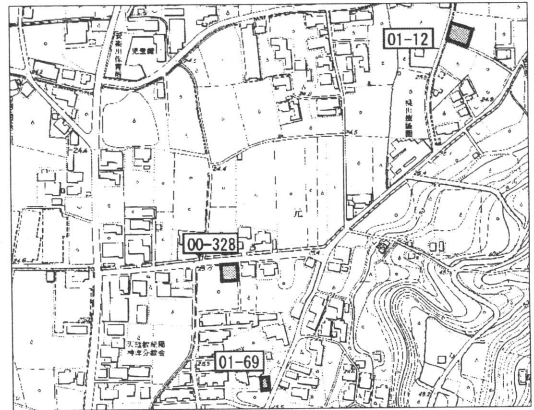
19. 元遺跡 (調査件名 ①00-328/②01-12/③01-69)

種別 工事立会

所在地 ①桃山町元 914-7

②桃山町元字高坊 768-2

③桃山町元字加和 906・909-5

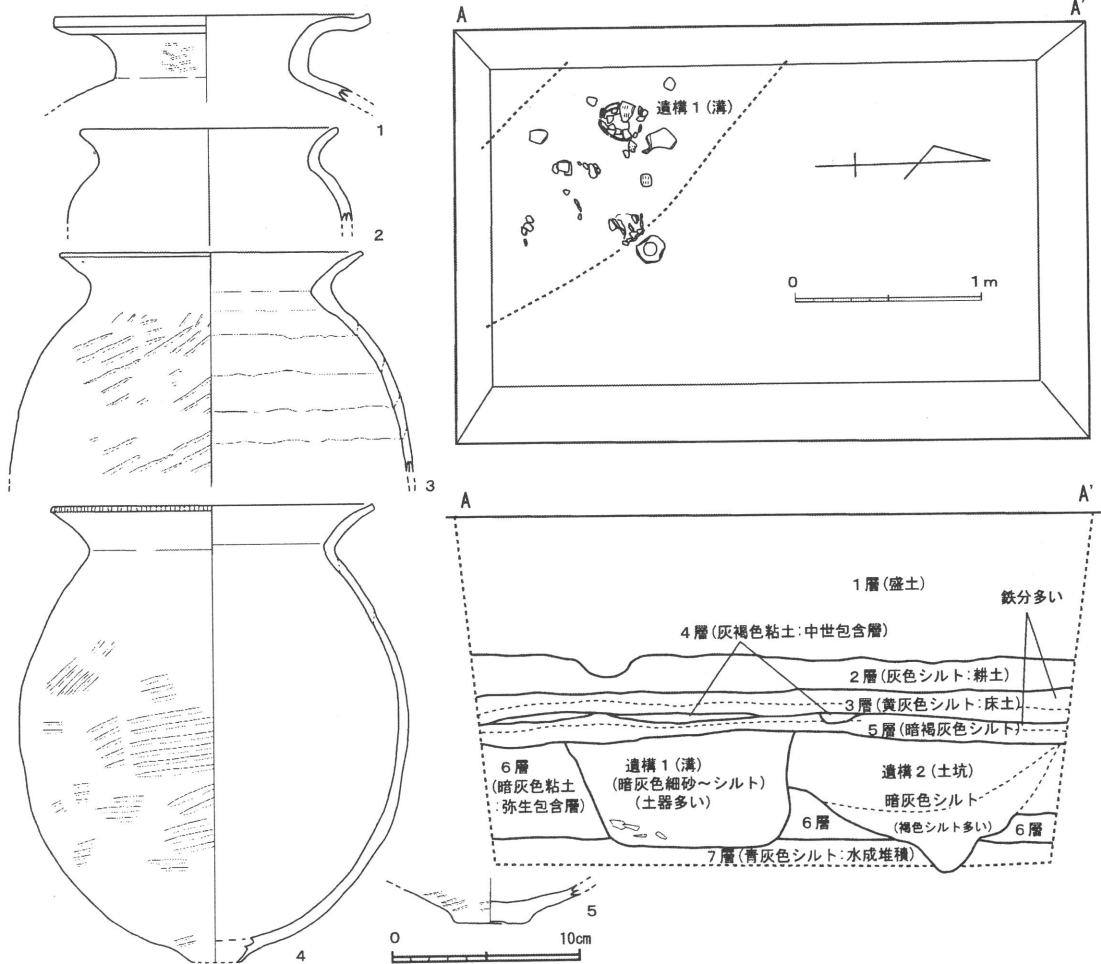


調査位置図 (S=1/7500)

①00-328

<調査の経緯> 元遺跡は、紀ノ川と貴志川支流柘榴川に挟まれた段丘上に立地。一帯は現在水田地帯である。個人住宅新築・浄化槽部分の掘削工事に伴う立会調査である。

<調査成果> 基本層序 7層に分層でき、上から1~7層とする。1~3層は現代の盛土・耕作土・床土。4層は灰褐色粘土層で、中世の遺物包含層(水田層か)である。5層は若干土壌化した暗褐色シルト層で、弥生土器が数点出土したことから弥生時代の遺物包含層の可能性はあるが、6層より遺物量は少量である。6層は暗灰色粘土層で、弥生時代後期の土器を多量に含む遺物包含層で、土壌化していない。この層の上面から遺構が掘り込まれる。7層は青灰



トレンチ図、遺構1(溝)出土遺物実測図(00-328)

色粘土層で水成堆積と考えられる。

遺構・遺物 掘削部分南半で幅約1m・深0.5mの北西-南東方向の溝1条を検出した。6層と遺構埋土の識別が困難であったが、土層断面の観察から溝と認識できた。溝下層では弥生時代後期の土器片がまとまって出土。溝の規模から環濠や区画溝の可能性はある。溝の北側にも土坑と考えられる落ち込みが認められるが、規模や性格は判然としない。遺物は5層の中世遺物包含層から瓦器や羽釜などが数点出土し、この他はおおむね弥生時代後期後半の遺物が出土している。溝下層の土器群はその大半がタタキを有する甕であった。甕の一部には底部輪台技法が認められる。また甕口縁端部に刻目を施したものが数点確認でき、他に壺の口縁から頸部にかけての個体も出土している。図示した遺物にはいずれも結晶片岩を含む。

所見 当遺跡はこれまで弥生土器の散布地とされていたが、今回弥生時代の溝が検出され、周囲に弥生集落の存在が推定できるようになった。また、中世の遺物包含層を検出したことから、周辺に中世集落が存在した可能性が考えられる。

②01-12

<調査の経緯> 個人住宅新築の浄化槽掘削工事に伴う立会調査である。

<調査成果> **基本層序** 旧地表下0.3mまで旧耕作土・床土。0.7mまで灰色シルト層。0.7m～掘削深度(1.3m)で遺物包含層(灰褐色シルト)を確認した。

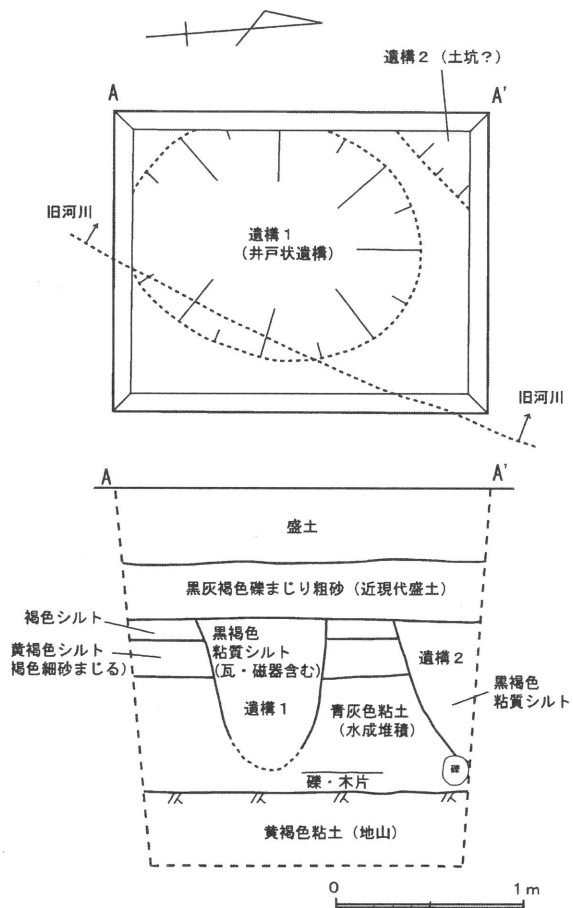
遺構・遺物 遺物包含層中の地表下1.1m地点で8世紀代の土師器杯が出土。この層の上で北東～南西方向の溝状遺構(灰色粗砂、幅1.2m×深0.4m)を検出した。

③01-69

<調査の経緯> 調査地点付近は現在住宅地であり、包蔵地範囲の南側縁辺部に当たる。個人住宅新築・浄化槽部分掘削工事に伴う立会調査である。

<調査成果> **基本層序** 上から1～6層。1層は現代盛土層。2層は黒灰褐色礫混粗砂層(近現代盛土)。3層は褐色シルト層(近世包含層)。4層は黄褐色シルト層(遺物なし)。5層は青灰色粘土層(水成堆積、旧河川か)。6層は黄褐色粘土層(地山)。

遺構・遺物 掘削部分のほぼ中央部で、径約1mの円形を呈する土坑を検出。湧水することから井戸の可能性はある。土坑の北西側に遺構が検出されたが、形状・性格などは不明である。遺物は、土坑埋土より17c後半～18c前半の肥前系磁器・陶器・瓦が多数出土した。この調査地点付近に近世の瓦葺建物があったことが推定される。



トレンチ図 (01-69)

20. 根来寺坊院跡 (調査件名 01-75)

種別 工事立会

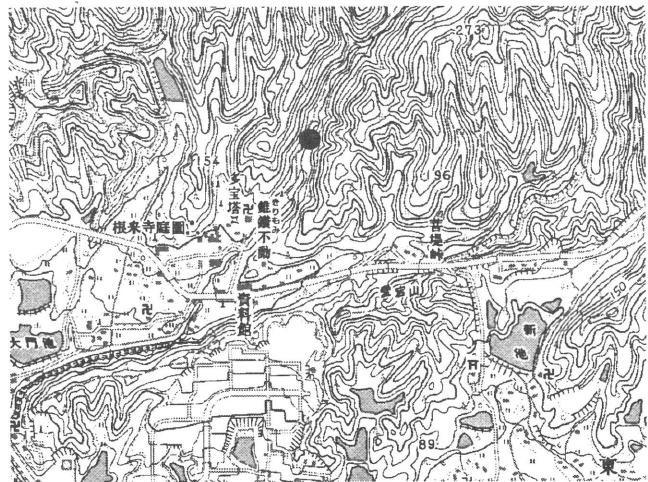
所在地 岩出町根来字根来 2277

<調査位置>調査地は大塔・大伝法院の北東にある浄土ヶ原密厳墓地から、大谷川沿いに谷筋を遡った場所である。治山事業対象地は延長 630 mで、このうち南側約 300mについて調査を実施した。

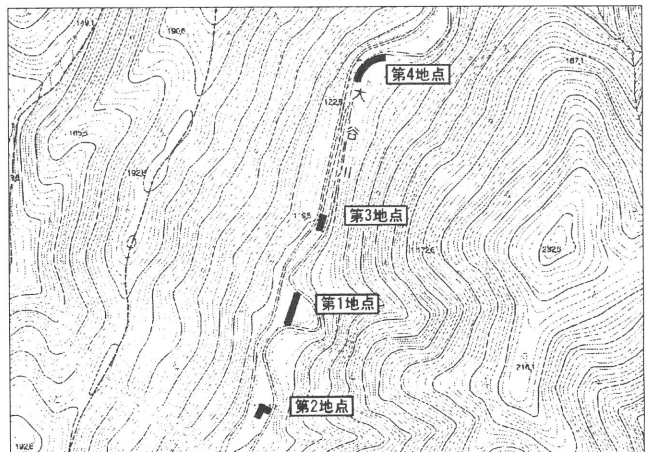
<調査の経緯>当初、当該地が埋蔵文化財の包蔵地であることが事業者認識されておらず、非通知のまま事業が着工されたため、7月19日に急遽立会調査を実施することとなった。現地を踏査したところ、河川の屈曲部に平坦地及び護岸らしき石垣が確認されたので、内容を把握するため4地点において掘削を行った。

<調査成果>基本層序 岩盤を基層としており、礫の混じる黄褐色土を地山とする。各地点で見られる平坦面は黄褐色土を均したもので、上面に遺物包含層、焼土が各 10cm 堆積している。包含層・焼土からは天正 13 年の豊臣秀吉による紀州征伐までの年代の遺物が出土した。

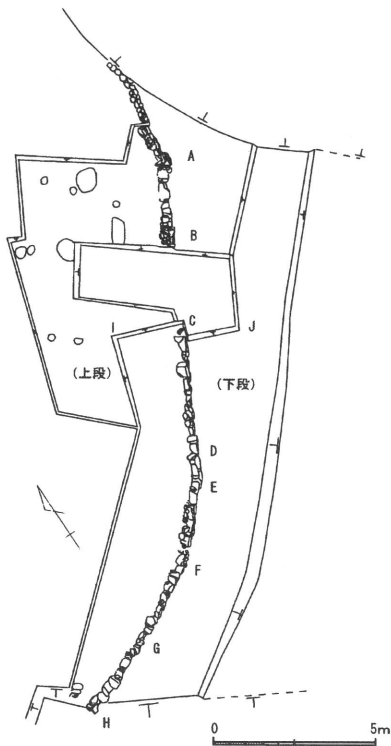
第1地点 南北 18.7mに及ぶ石垣を検出した。石垣は3箇所で屈折しており、西側が上段、東側が下段の平坦面となる。上段ではピット状の遺構が確認され、天目茶碗や土師質土器、青磁の破片が出土した。下段では石垣下段の高さで黄褐色土をベースとする面が検出された。また、この面より 30~40cm 下で焼土層が確認され、天正の頃のものと考えられる土師皿が出土した。近接する2時期の遺構面があるものと判断される。**第2地点** 黄褐色土の平坦面と区画溝を1条確認した。**第3地点** 護岸石組が残存する地点で断割りを行った。石垣は3回に渡り積まれており、中段上面で焼土を確認したが、遺物は出土しなかった。**第4地点** 広い平坦面を背負って護岸石垣が残存している。護岸石垣の断割りを行ったところ、石垣上面にて中世の遺物を含む遺物包含層と焼土層を確認した。



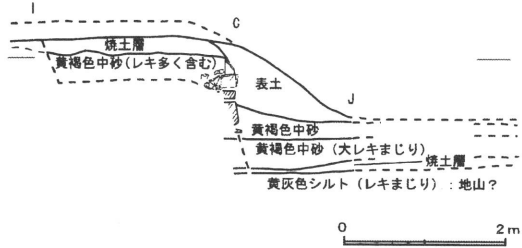
遺跡位置図



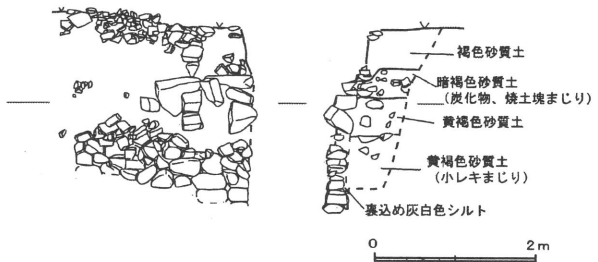
調査位置図



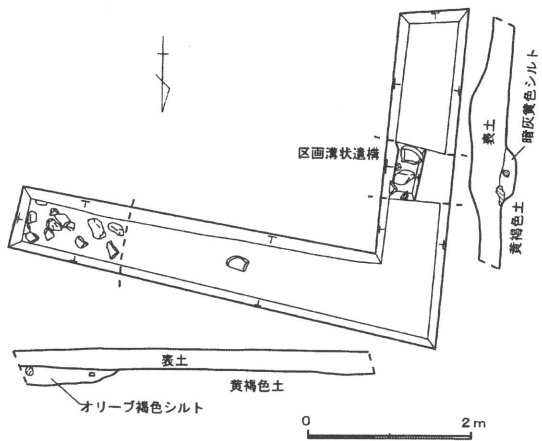
第1地点調査区平面図



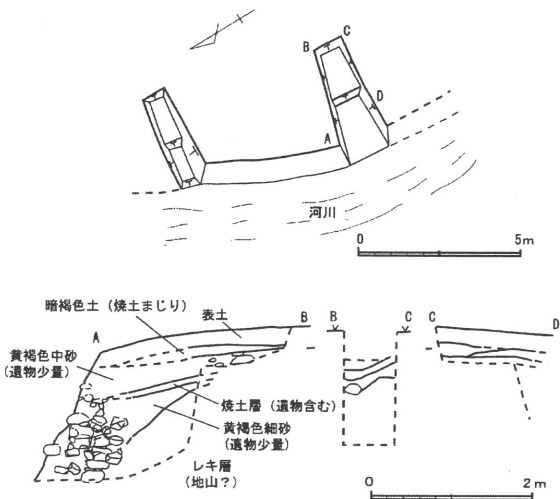
第1地点土層断面図



第3地点護岸石垣立面図・断面図



第2地点調査区平面図・断面図



第4地点調査区平面図・断面図

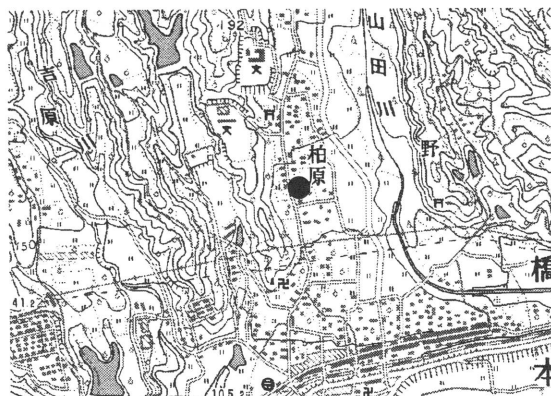
調査区平面図・断面図

2 1 . 柏原遺跡 (調査件名 98-145)

種別 試掘・確認調査

所在地 橋本市柏原

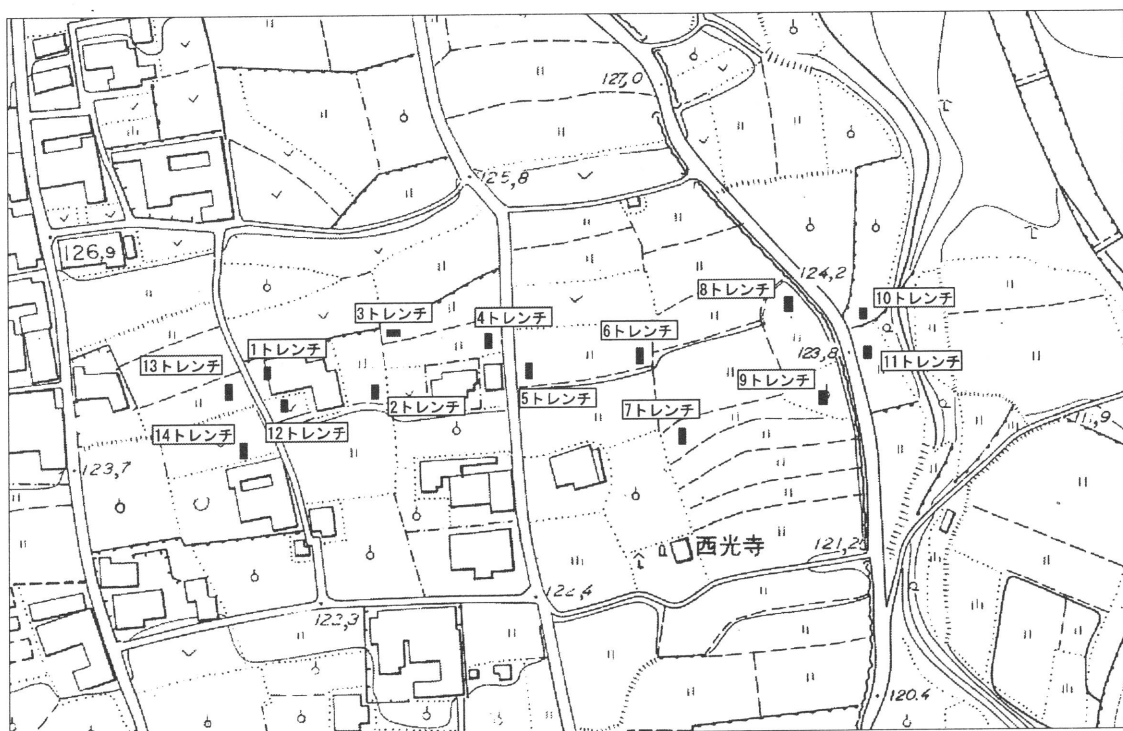
<調査の経緯> 柏原(かせばら)遺跡は紀ノ川の支流山田川の西岸に位置する弥生時代の遺物散布地として知られる。遺跡の東西には比高差 30mの丘陵が横たわり、周辺は南へくだる緩傾斜地である。標高は 124m。調査地の南には鎌倉時代の文書が残存する西光寺が隣接しており、西の丘陵上には仏性寺古墳群が展開する。



遺跡位置図

今回の調査は京奈和自動車道建設に先立つ、第2次試掘確認調査である。前年度に実施した第1次試掘確認調査において調査を行っていない地点を均等にカバーするように、4×2mのトレンチを12カ所、2×2mのトレンチを2カ所設定した(1~14トレンチ)。

<調査成果> 基本層序 次の7層に分けられる。1層は表土・耕作土。2層は床土。3層は中世から近世の遺物包含層。灰黄褐色土。鉄分・マンガン粒を多量に吸着した層により分層が可能なものについては、3a層と3b層に分けた。3a層は近世、3b層は中世から近世。4層は中世の遺物包含層。10cm以下の礫を混入する黒褐色土。多数の遺構が確認できる。5層は黄褐色系の粘質土。遺物は確認されていない。6層は弥生時代~飛鳥時代までの遺物を包含する層。7層は地山で細かい砂礫層である。



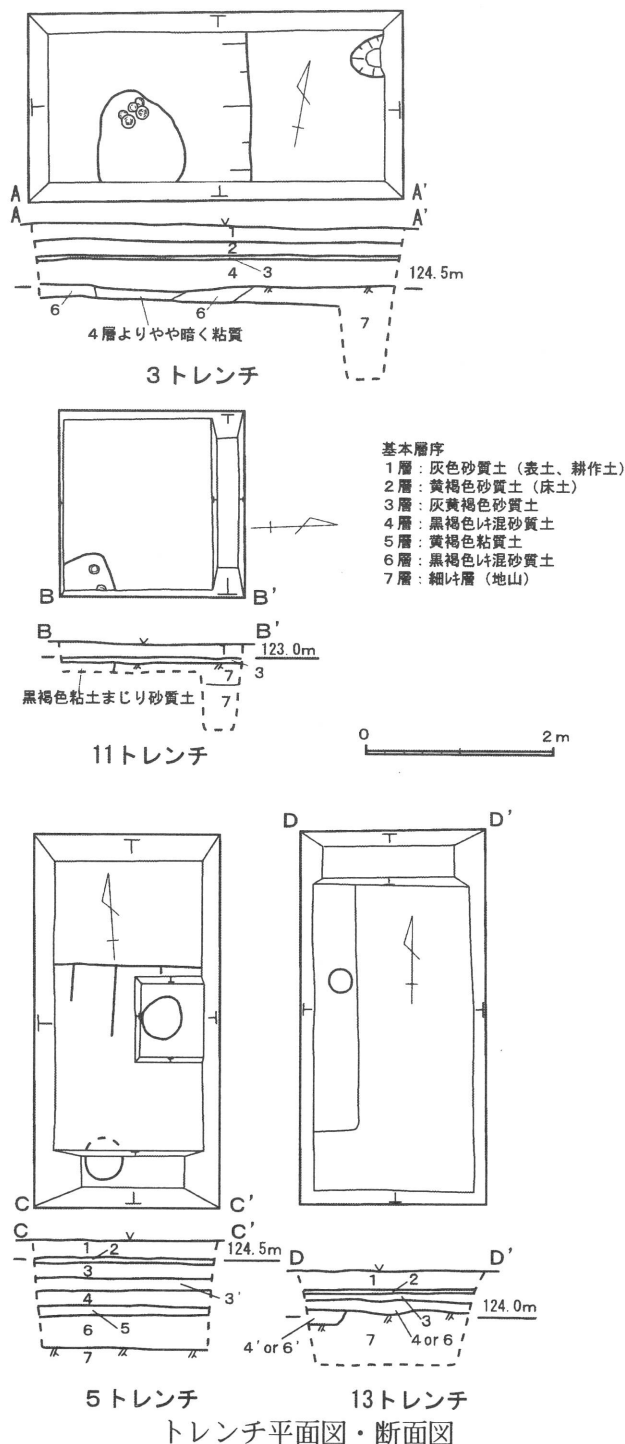
調査位置図

1～6層は5トレンチでは120cm堆積する。東西に向かって堆積はやや浅くなり、8～11トレンチでは表土下約20cmにて地山が確認される。

遺構・遺物 遺構は竪穴住居跡と考えられる遺構1基、中世土墳墓1基、飛鳥時代の土墳墓1基、柱穴2基、柵列2列、土坑4基、ピット23基、素掘小溝跡25条、その他溝7条、落ち込み2カ所を確認した。遺物は土師質の土器305点（うち弥生土器と判断がつくもの17点）、須恵器52点、瓦器13点、瓦質土器13点、陶器36点、磁器105点、瓦33点、サヌカイト片25点（うち石鏃1点）、チャート片2点、緑泥片岩4点、石英2点、砥石1点、その他鉄片、焼土塊、金属滓、炭片が出土した。

主な遺構 3トレンチ4層下面では土墳墓とピットを各1基確認した。土墳墓には瓦器椀2点と瓦器皿3点が並んだ状態で検出された。土墳は南北に長い楕円形を呈しており、頭位が北枕であると考え、頭部付近に並べて副葬したものといえる。5トレンチ地山面では6層を埋土とするピット1基を確認した。6層からは弥生時代中期頃の土器口縁部が出土していることから、これ以前の遺構といえる。11トレンチ地山面では7世紀中頃の土墳墓を1基確認した。土墳墓の検出面で飛鳥Ⅲ様式の須恵器坏2点を確認した。13トレンチ地山面では竪穴住居跡の一角と考えられる遺構を確認した。掘削は行っておらず、年代などは不明である。

所見 今回の調査では、弥生時代中期以前、飛鳥時代、鎌倉時代の遺構を確認した。復原される旧地形及び遺構・遺物の分布状況から、遺跡の中心は3～6トレンチ付近にあるものと考えられる。調査対象地の中央から西側にかけて（1～7・12～14トレンチ）では建物跡等が確認されており、集落域であったものと推定される。一方、調査対象地の東端部（第8～11トレンチ）は堂の浦古墳に連なる南北方向の丘陵地形を呈しており、古墳時代後期～末期の墓域が展開しているものと考えられる。

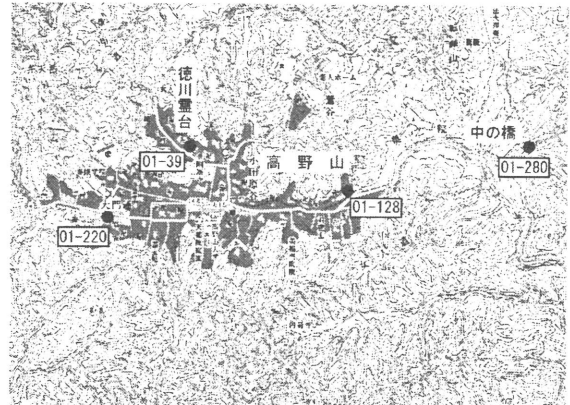


2.2. 金剛峯寺遺跡

(調査件名 ①01-128/②01-220/③01-280/④01-39)

種別 工事立会

所在地 高野町①高野山 566/②高野山 272
/③高野山 49-7/④高野山 674-1



遺跡位置図 (S=1/50000)

① 01-128

<調査の経緯> 清浄心院増築工事に伴う基礎部分の立会調査である。調査面積は 19.5 m²。

<調査成果> 基本層序 1・2層:近現代盛土。3・4層は整地層か。5層地山。

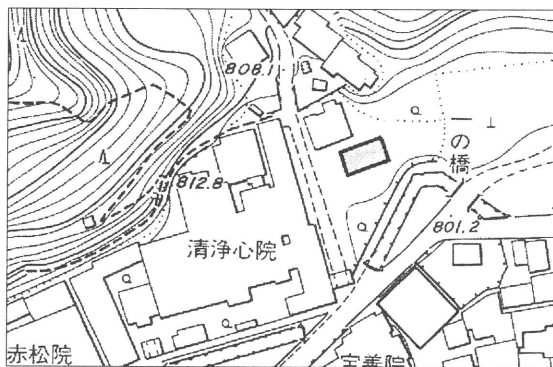
遺構・遺物 4層上面で遺構1(柱穴)、2(溝)、5層上面で遺構3(礎石)を検出。遺構1から瓦質土器が出土(中世か?)。

② 01-220 個人住宅建築に伴う立会調査である。調査面積は45 m²。遺構は検出できなかった。遺物の出土もなし。

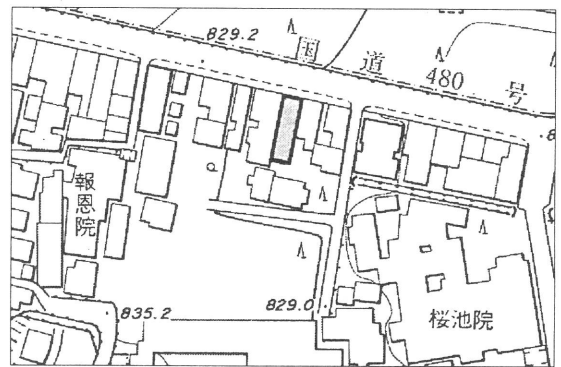
③01-280 個人住宅建築に伴う立会調査である。調査面積は4 m²。遺構は検出できなかった。遺物の出土もなし。

③ 01-39

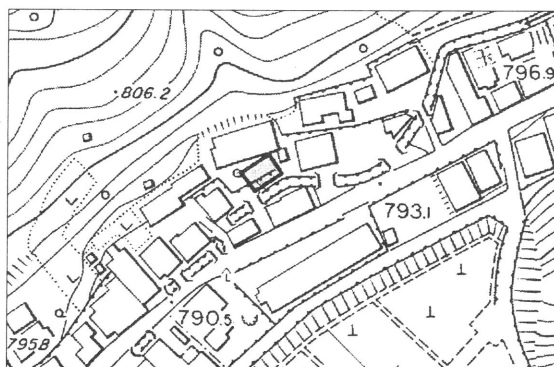
個人住宅新築に伴う基礎布堀り部分の立会調査(30 m²)である。工事掘削範囲は、近現代以降の整地層間におさまる。古伊万里(金襴手)の鉢が出土した。



①調査位置図(01-128)



②調査位置図(01-220)



③調査位置図(01-280)



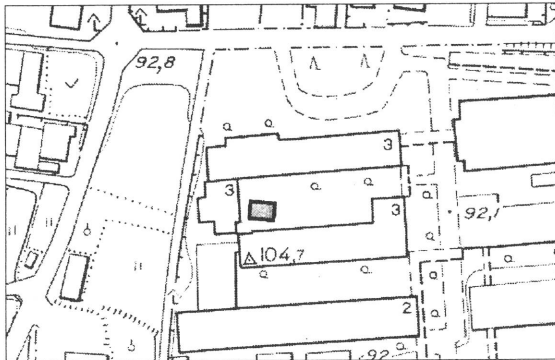
④調査位置図(01-39)

23. 神野々Ⅲ遺跡

(調査件名 01-59)

種別 工事立会

所在地 橋本市神野々809



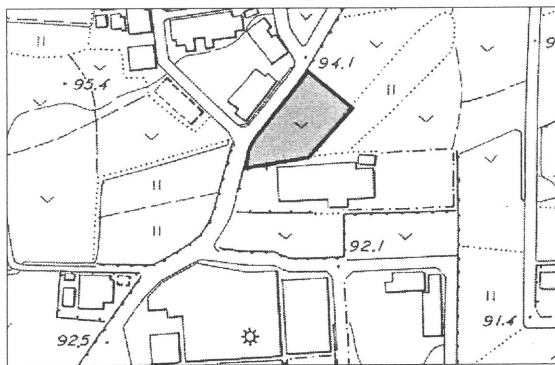
調査位置図

24. 応其Ⅰ遺跡

(調査件名 01-83)

種別 発掘調査

所在地 高野口町応其板橋 90-2



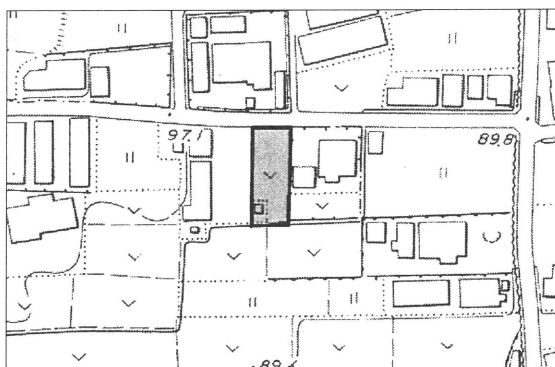
調査位置図

25. 名古屋Ⅰ遺跡

(調査件名 01-110)

所在種別 工事立会

所在地 高野口町名古屋字住貝 215-5



調査位置図

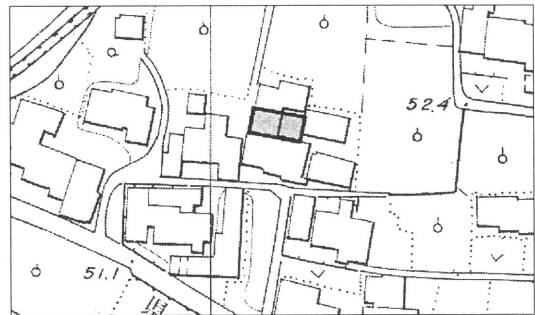
26. 渋田遺跡

(調査件名 ②01-275/①01-114)

種別 工事立会

所在地 ①かつらぎ町西渋田字金ノ手 256

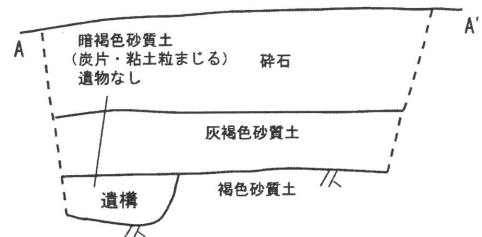
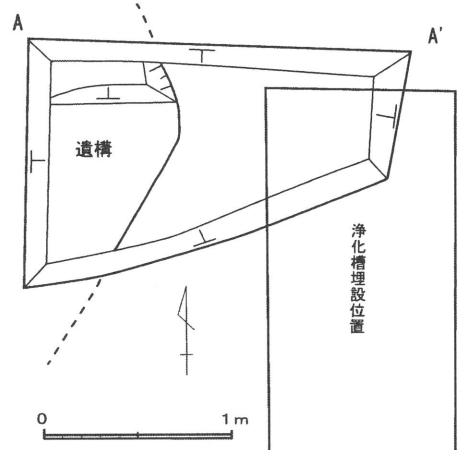
②かつらぎ町島 43



渋田遺跡調査位置図 (①01-275)



渋田遺跡調査位置図 (②01-114)



渋田遺跡遺構平面図・断面図(②01-114)

28. 宮崎城跡 (調査件名 01-42)

種別 工事立会

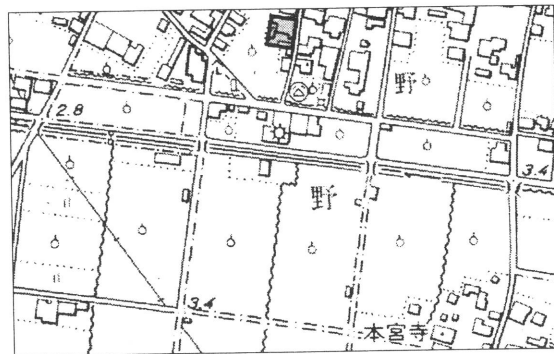
所在地 有田市野 127

<調査の経緯> 個人住宅の独立基礎部分(2×2m×深 1.3mを計6箇所)と地中梁部分(幅1m×深 0.8mを計7本)の掘削工事に伴う立会。中世城館という伝承(喜応元(1169)年宮崎定範築城)があるが、発掘調査がおこなわれておらず実態は不明である。

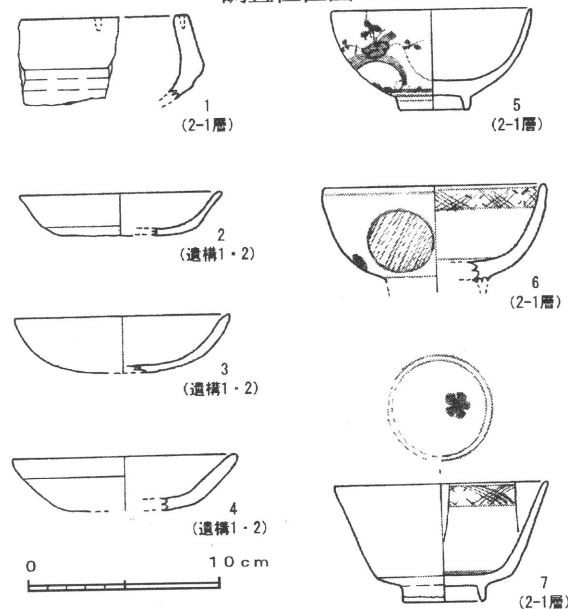
<調査成果> 基本層序 1層褐色～褐灰色細砂(近現代盛土)、2層暗褐色シルト(近世遺物包含層)、3層暗灰色～褐色細砂(時期不明の盛土)で、2層から18世紀代の磁器が多量に出土。

遺構・遺物 第1グリッド2層下面で礫を多く含む2基の土坑(遺構1・2)を検出した。遺構から近世の土師器・磁器が出土。この他第1グリッドから18世紀代を中心とする磁器・土師器が出土。

所見 当遺跡において近世の遺構や遺物を確認するなど始めて考古学的所見が得られた。工事深度以下に時期不明の盛土が続いているため当遺跡の時期がさらに遡る可能性もある。



調査位置図



第1グリッド遺物実測図

29. 旧円満寺跡

(調査件名 01-95)

種別 工事立会

所在地 有田市東字神田258-2



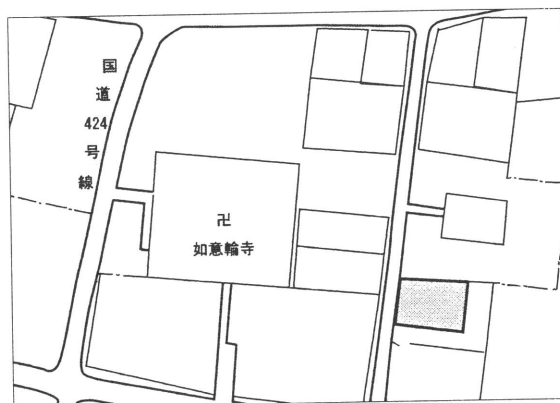
調査位置図

30. 中井原遺跡

(調査件名 01-198)

種別 工事立会

所在地 金屋町中野 109-1



調査位置図

3 1 . 弁天山古墳（向山 4 号墳）

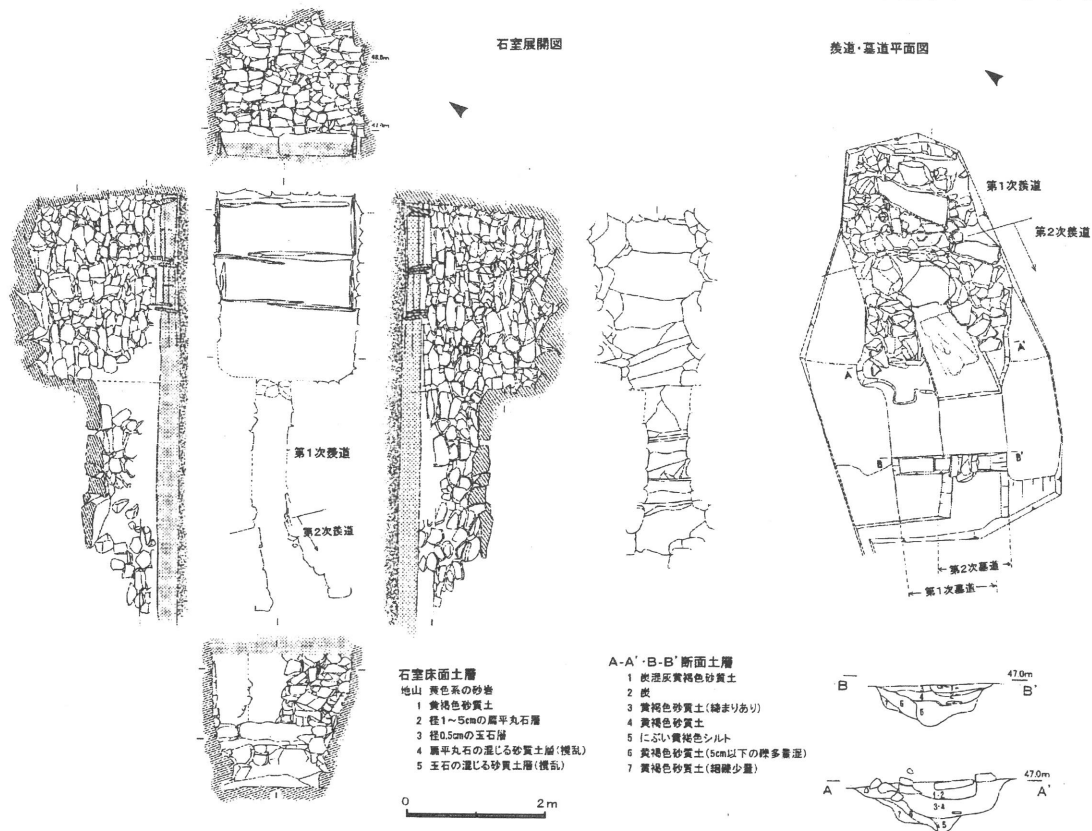
種別 現状変更
所在地 日高町荊木



遺跡位置図

＜調査の経緯＞弁天山古墳は日高町荊木の平野部を見下ろす向山丘陵に所在する。昭和2年に調査が行われており、『史蹟名勝天然記念物調査報告』第7輯に報告されている。今回は県指定史跡整備のための基礎資料作成を目的として発掘調査を行った。事業主体は日高町であり、調査は日高町文化財調査委員会が委託を受けて実施した。調査及びそれに伴う事務は日高町教育委員会社会教育課の崎山が担当し、現地調査の指揮は和歌山県教育庁文化財課の丹野が担当した。なお、本調査の成果は、日高町・日高町文化財調査委員会 2002.3『和歌山県日高郡日高町所在 県指定史跡 弁天山古墳（向山4号墳）』に詳しく掲載している。

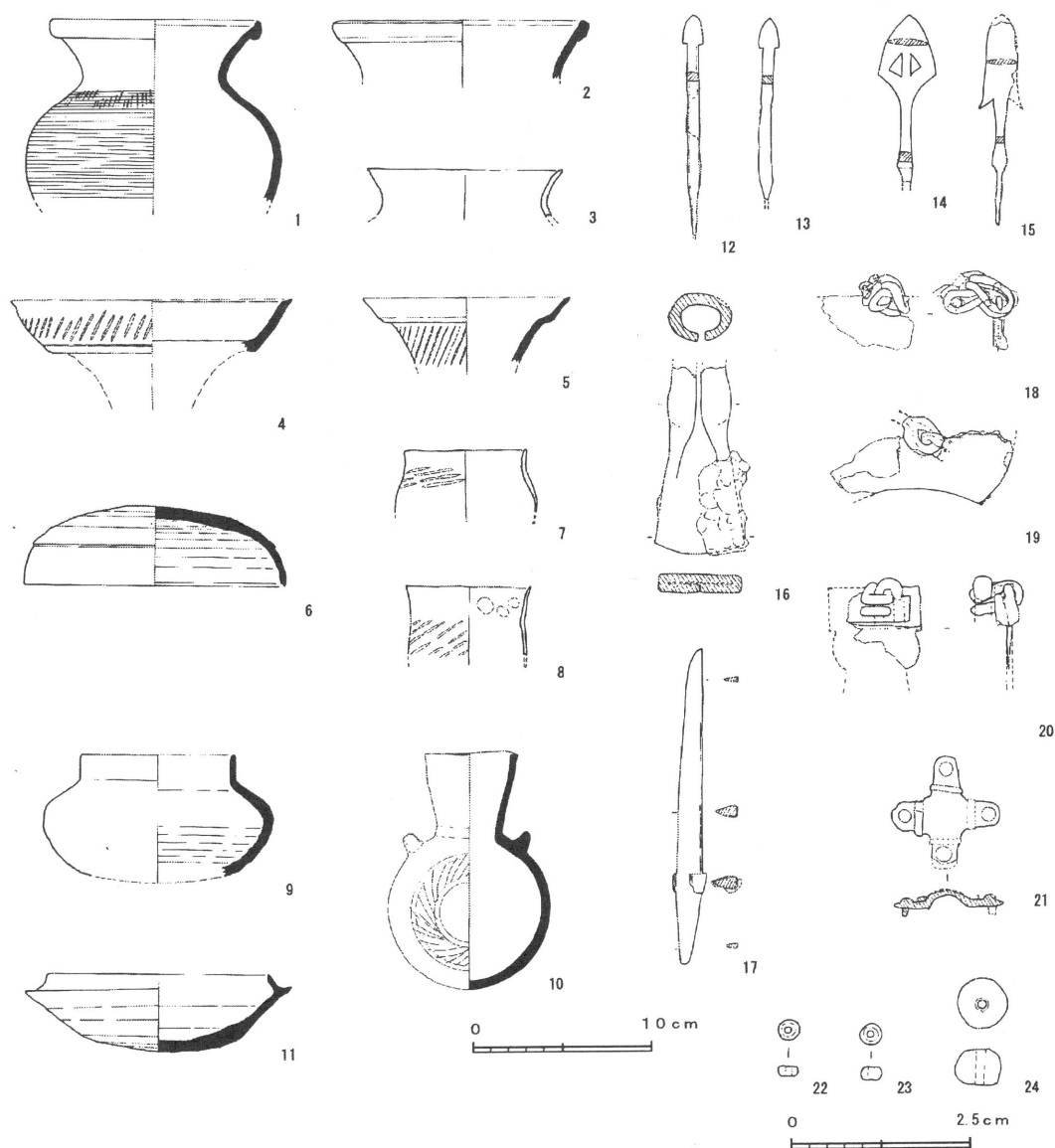
＜調査成果＞調査方法 開口部の検出を目的に第1トレンチ、墳丘の規模・形状の確認を目的に第2～7トレンチを設定した。また墳頂に第8トレンチを設定して掘削を行った。墳丘 墳丘は直径約13mに復原される。地山である岩盤上に土を盛り平坦にした上で、石室と墳丘を構築している。主体部 砂岩を用いた両袖式の横穴式石室を主体部とする。残存長6.1m。うち



石室実測図（報告書より引用）

玄室は長さ約 2.6m、幅約 2.1m、高さ約 2m。羨道は長さ約 3.3m、幅約 0.5~0.8m、高さ約 1 m。玄室内には緑泥片岩を用いた屍床が二つ造りつけられている。羨道は入り口側半分において、造り直していることが確認された。古い羨道に対して、新しい羨道の入り口は南へ向いており羨道が途中で折れ曲がる状況を呈している。遺物出土状況 奥の屍床内からは須恵器、製塩土器のほか、武器・馬具等鉄製品、ガラス小玉、土玉が出土した。また、羨門・墓道・墳丘裾からは完形の須恵器の提瓶、坏身のほか、器台、甕、埴輪片が出土した。

所見 今回の調査により、墳丘の規模と構築方法、羨道と墓道について2時期分の遺構があることが判明した。遺構・遺物から判断すると、当古墳は6世紀前半に築造され、羨道の造り直しを経て、6世紀末~7世紀初頭頃まで追葬が行われたものと判断される。なお、主体部の石組は崩落、ひび割れ等が多く、整備・保存が今後の課題である。



遺物実測図（報告書より引用）

(1~8、12~24:玄室、9:墳丘裾、10:羨門、11:第2次墓道出土)

3 2 . 徳蔵地区遺跡・高田土居城跡

(調査件名 ①201-173/③00-101/④97-327/⑤00-118)

種別 ①試掘・確認調査/②工事立会/
③試掘確認調査/④工事立会/
⑤試掘確認調査

所在地 ①②南部川村徳蔵/③南部町、南部
川村徳蔵/④南部川村徳蔵/⑤南部
町気佐藤



遺跡位置図

①01-173

<調査の経緯> 村道(南北幅7m、東西延長は約340m)新設に伴う確認調査である。調査地周辺は、(財)和歌山県文化財センターが平成9年度から発掘調査を実施しており、縄文時代の集落跡や中世の高田土居城跡を始めとした遺構が確認されている。調査区はトレンチを4ヶ所設置し、東から順に1～4トレンチとした。

<調査成果> 基本層序 次の9層に分けられる1層は現在の水田耕作土、暗灰黄色シルト。2層は床土、オリーブ褐色シルト。酸化鉄粒・マンガン粒が細かく混じる。3層は黄灰色粘質土。酸化鉄粒少量・マンガン粒やや多く混じる。4a層は黄灰色粘質土、褐色土粒混じる。酸化鉄粒・マンガン粒少量。4b層は黄灰色粘質土。酸化鉄粒・マンガン粒少量。5層は黄灰色粘質土。酸化鉄粒少量、マンガン粒多量に混じる。6層は青灰色粘質土。7層は明るい緑灰色粘土。8層は5cm以下の礫の入る暗褐色砂礫。9層は2cm以下の礫の入る褐灰色砂礫。

遺構・遺物 小溝の他、少量の土器片が出土したのみである。

<所見> 4トレンチ付近は微高地となっており、かつて縄文時代晩期の遺構面(5層上面、ただし遺構面は削平されていることも考えられる)が存在したものと考えられる。一方、1～3トレンチでは5層を埋土とした包含層があり、縄文時代晩期～古墳時代(あるいは古代)の土器が包蔵されている状況が確認できた。これらの上層に水田が作られて、現在の八丁田圃の景観を形成するに至っているが、出土遺物が僅少であり水田の形成年代は判然としなかった。

②01-173

村道新設工事に伴う立会調査である。遺構・遺物とも検出できなかった。

③00-101

<調査の経緯> 国道424号線改良工事に先立ち、南部町、南部川村所在の徳蔵地区遺跡について、試掘調査を実施した。調査は工事予定地に5箇所のトレンチ(1～5トレンチ)を設定した。

<調査成果> 基本層序 1～3トレンチ 基本的な層序は同じで、現在の耕作層の下に比較的硬度のある第3層オリーブ黒色シルト質土層が薄く堆積する。その下には軟弱なシルトの第4層・第5層がある。第5層には鉄分の沈着した植物根痕跡が非常に多く認められ、かつて湿地又は半湿地状の環境であったことが推定できる。第6層は有機質に富んだ黒褐色の粘性のあ

るシルト質土層で、第6層の下には3～4層のシルト質層が堆積し、その下にはシルトと砂や細礫が不整合に重なって洪水による生成を伺わせる第11層が堆積する。

4・5トレンチ 徳蔵遺跡の範囲内に設置。基本的な層序は1～3トレンチと全く同様。

遺構・遺物 1～3トレンチ 遺構は1トレンチの第7層上面で溝状の遺構が1条検出されたのみで、遺物も1・2トレンチ第6層及び2トレンチ第7層から土器片が2～4片ずつ出土しただけである。

4・5トレンチ 遺構は全く検出されず、遺物は5トレンチの第8層・第11層から弥生中期の土器片が1～4片出土しただけである。

所見 1～5トレンチを配置した箇所は、国道424号線の東側で道路に沿って発達した微高地状地形を呈しており、遺構・遺物の所在が予想されたが、ともに殆ど検出されなかった。しかし、各トレンチの層序はほぼ共通し、現在とは異なる古い地貌の復原資料を得ることができた。

各トレンチ間の同一地層の傾斜を見ると、第6層と第11層の間は、3～4層に区分できるシルト質層が堆積し、第6・11層間の厚さは凡そ0.9mと一定しており、西方及び南方に下がる緩傾斜をなしている。第11層は弥生時代中期以降の洪水砂と見られ、広範に分布することから自然流路の公算が大と思われるが、その後の地層の堆積は安定しており、急激な地形変動がなかったことがわかる。

4トレンチでの第11層上面の標高は約4.0mで、この地点の東方約200mのところで検出された古墳時代前期の自然流路の検出面と同じ高さである。現状では微高地状を呈すると理解されていたところも、弥生時代や古墳時代前期では、標高約4.0m程度の広範に広がる低地の一部で、そこでは自然流路が随所に形成される環境にあったといえる。

第6層の堆積や第5層に顕著な植物根痕跡も、非常に広範囲に認められ、古墳時代前期以降も長期に渡って湿地又は半湿地の環境にあったことが分かる。

一方、(財)和歌山県文化財センターの調査により、縄文時代や飛鳥時代の遺構が検出された5トレンチの南西の地点は、標高約4.5mを誇る砂礫質の地層で、第6層や第11層が堆積するところとは地層の状況が異なっている。

以上のことから見ると、飛鳥時代以前のこの辺りは、標高4.0m以下の低地が広範囲に広がっており、その中に標高4.5m以上の砂礫層で構成された微高地が所在するような地貌が推定できる。集落跡はこうした微高地上に営まれ、標高約3.5mで「井堰」が見つかったことから、低地の一部には水田開発が行われたものと見られる。

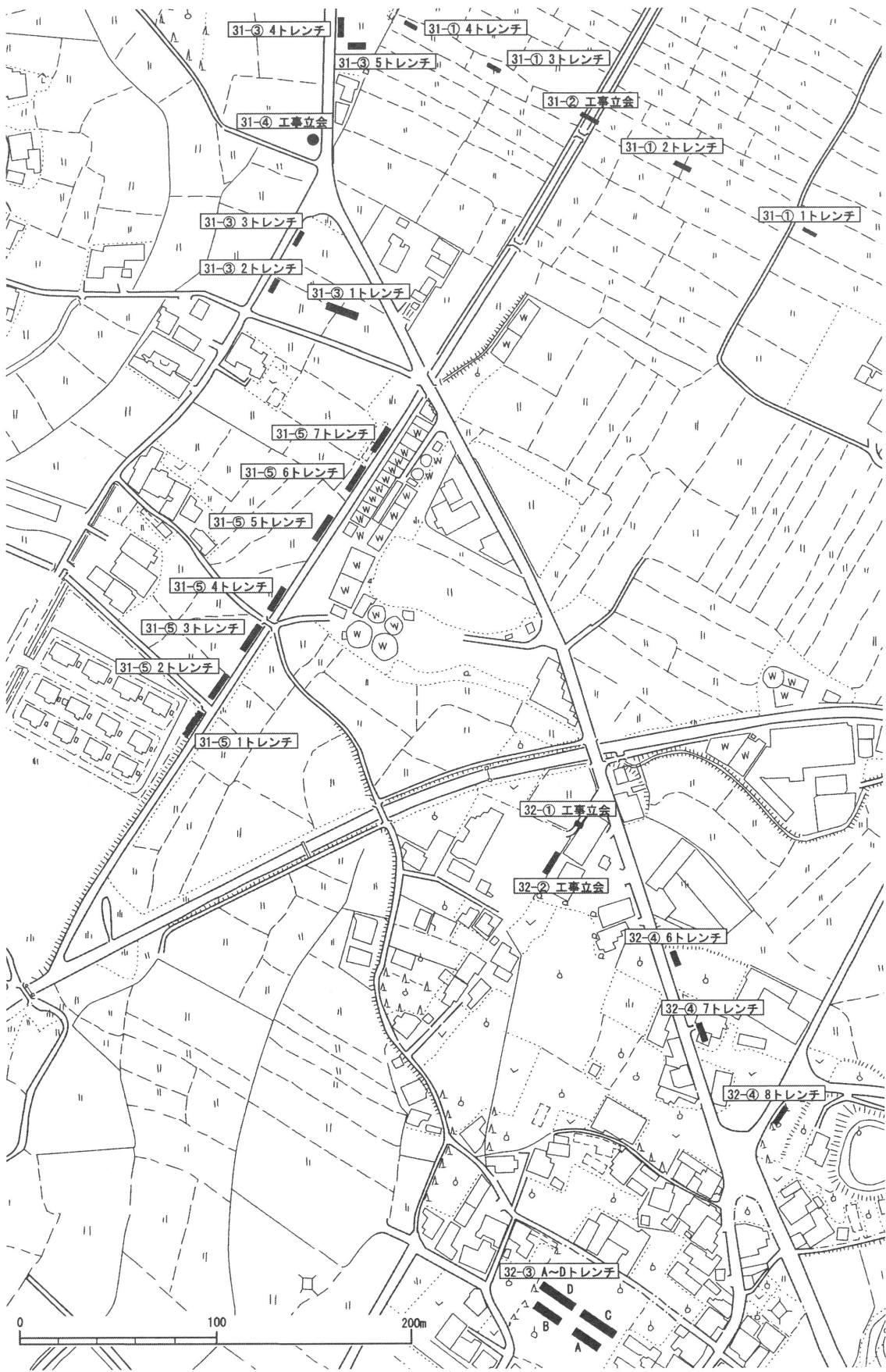
現状の地形を見ると、国道424号の西側は東側より標高が低くて地割りが乱れており、南部川の氾濫原と考えられ、国道424号及び国道に沿って東側に発達した微高地状の部分の地割りも乱れている。一方、微高地の東側には条理型地割りが遺存しており、好対象の様相を呈している。

第11層の上部堆積地層の堆積年代についての資料はなく、形成時期の詳細は定かではないが、このような現状の地形と調査の所見を勘案すると、国道424号の東側にある微高地状地形は南部川の氾濫と流路の移動によって比較的新しく形成されたものと考えられる。

④97-327

近畿自動車道建設に伴う立会調査である。遺構・遺物とも検出できなかった。

⑤00-118 古川支線の改修工事に伴う試掘確認調査であり、高田土居城の外堀と考えられる溝を検出した。



徳蔵地区・高田土居城跡・大塚遺跡調査位置図

3 3 . 大塚遺跡

(調査件名 ①00-531/②01-136/③01-168/④00-101)

種別 ①工事立会/②工事立会/③試掘・確認調査/④試掘

所在地 ①南部町東吉田/②南部町東吉田字梅田 208-1

③南部町東吉田字大塚 141-1/④南部町東吉田

遺跡位置図、調査位置図については、3 1 . 徳蔵地区遺跡・高田土居城跡を参照。

① 00-531

<調査の経緯> 町道の新設・改良工事に伴う立会調査である。

<調査成果> 調査区の南から3 mのところまで自然河川の堆積層を確認した。北側は同深度で盛土のままとなっているので、この河川は南から北へ流れていたものとみられる。遺物は包含していない。

② 01-136

下水道埋設に伴う立会調査であるが、少量の土師器片が出土したのみで遺構は検出できなかった。

③01-168

<調査の経緯> マンション建設に伴う発掘調査である。計4カ所のトレンチを浄化槽部分と基礎部分に設定し調査を実施した。

<調査成果> 基本層序 1層：現代の耕作土、2層：暗灰色の砂層、3層：黄色砂層（地山）である。なお、Dトレンチでは2, 3層間に礫層が介在する。

遺構・遺物 Cトレンチでは、表土から50cmほどで地山面に達し、竪穴住居跡と考えられる遺構を、Dトレンチでは、溝状遺構を検出した。2層、遺構埋土から弥生土器、土師器などが出土した。

④00-101

<調査の経緯> 県道上富田南部線の改良工事に先立ち、和歌山県土木部の協力を求め、発掘調査を実施した。国道424号線に伴う試掘調査とともに実施したため、大塚遺跡に該当するトレンチは6～8トレンチである。

<調査成果> 各トレンチにより層序や遺構検出状況が異なる。

6トレンチでは現代の耕作層の下に土質から水田耕作層と見られる第3層が堆積しており、層中には10cm大の円礫を南北方向に並べた施設を検出。この施設は畦畔の基底をなすものと見られる。第3層の下には鉄分の沈着した厚さ3cmの第4層があり、この層からは8世紀前半の須恵器・土師器、青磁や常滑等の中世の遺物、その他に近世の肥前系磁器の破片が1片出土。第4層からは8世紀前半の須恵器や土師器が多数出土した。第4層の下は無遺物の礫混じりシルト層となり、その上面で土坑状の遺構と見られるプランを検出した。畦畔が作られ、第3層が耕作された時期は第4層出土遺物から見て18世紀中頃以降と考えられる。

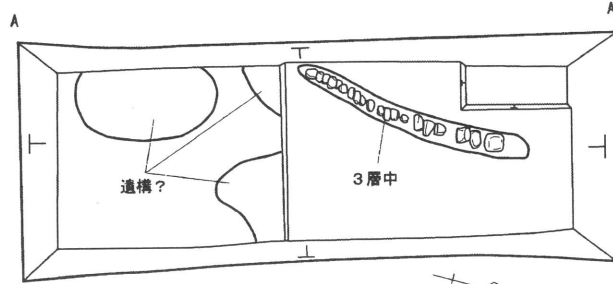
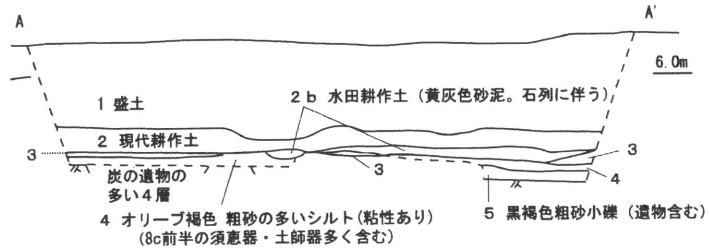
7トレンチでは、近世の遺物を含む第3層の下で土坑状あるいは溝状の遺構が検出され、遺構内から縄文土器と見られる土器片が少数出土した。

8トレンチでは、現代の耕作層及び鉄分沈着層の下が須恵器片や土師器片を包含する第3層となり、出土遺物には古墳時代前期の土師器片もある。第3層の下は無遺物の礫混じりシルト層で、その上面で土坑状遺構のプランを検出した。

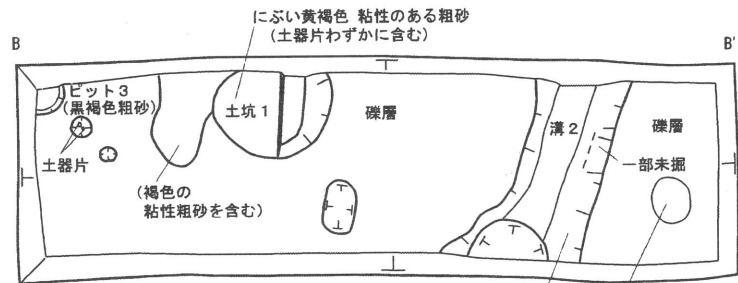
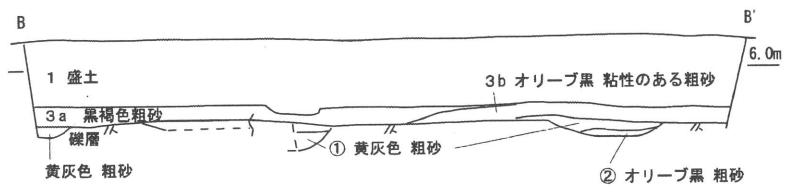
所見 以上のように6～8トレンチでは、縄文時代から中世にかけての遺物を多数包含する地層の堆積や遺構が検出された。遺構検出面は無遺物の礫混じり層で、その標高は6トレンチで約4.9m、7トレンチでは約5.3m、8トレンチでは約8.1mとなり、南に行くに従って高くなっており、概ね現在の地貌と一致している。また、これらのトレンチの西方に周知されている大塚遺跡では、標高約5m以上で縄文時代や古墳時代の遺構が検出されており、大塚遺跡の最終遺構面をなす礫混じりの砂層は、6～8トレンチと基本的に同質の地層である。

こうした共通する地層の状況や地貌から判断して、大塚遺跡及び6～8トレンチの付近一帯の地形は、8トレンチの南東にある丘陵を中心に貝殻状の等高線を描く地形を呈しており、その上に縄文時代から中世にかけての遺構や遺物が所在するものと見ることができる。したがって、今回の調査地点は大塚遺跡の一部と理解するのが適当であろう。

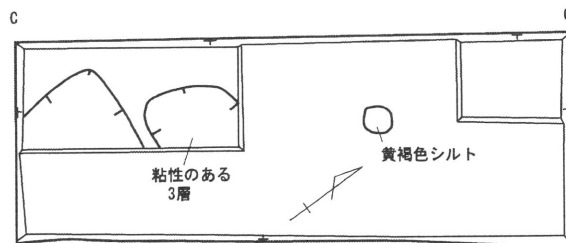
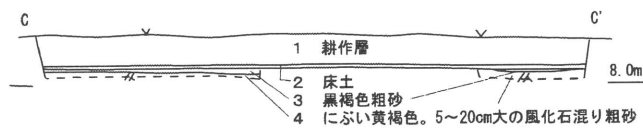
この結果を踏まえ、遺跡の範囲変更を実施した。



6トレンチ



7トレンチ



8トレンチ

トレンチ平面図・断面図 (④00・101)

34. 白浜町～すさみ町

種別 分布調査

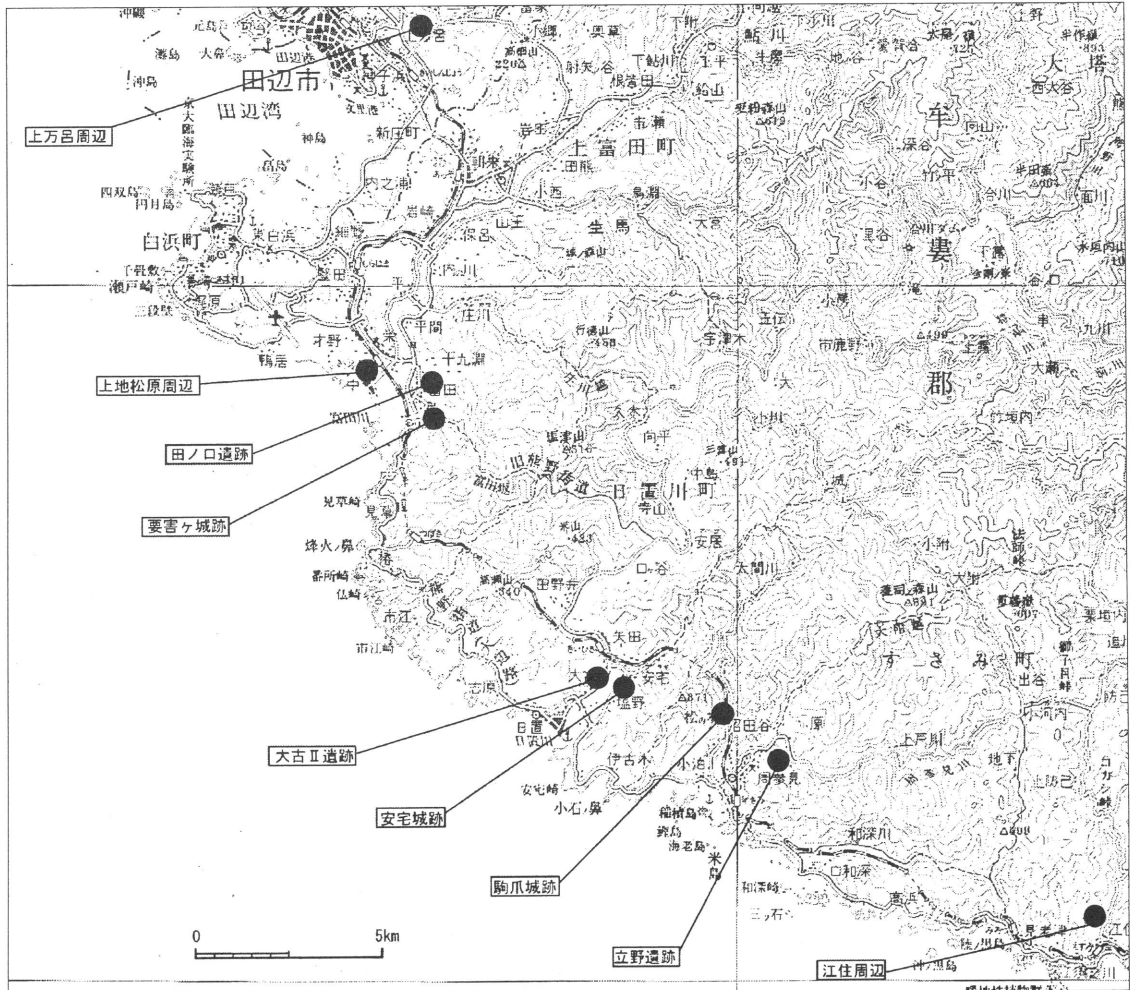
所在地 白浜町ほか

<調査の経緯> 田辺市～白浜町間・白浜町富田～すさみ町江住間の高速道路建設予定地において遺跡分布調査をおこなった。

<調査成果> 分布調査地点ごとに概要を述べることにする。

①田ノ口遺跡周辺（白浜町富田）

和歌山県教育委員会1996『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』（以下『包蔵地地図』）によると田ノ口遺跡では土師器・製塩土器・砥石・叩石が出土し、古墳時代の散布地とされている。当遺跡は路線予定地にかかることから、遺跡の現況を確認することにした。当遺跡はほぼ独立した丘陵部に位置し、その丘陵の西斜面が路線予定地になっている。路線予定地部分を中心に踏査した結果、丘陵の頂部から西斜面部分で約50cmの遺物包含層と数点の遺物が確認できた。現在この部分は近代の耕地造成と思われる平坦面がつくられており、遺物包含層が本来の状況を保っているとは限らないが、丘陵部に厚い包含層を形成する人為的活動があったことは間違いない。遺物は須恵器・土師器・製塩土器（丸底Ⅲ式）が数点採集できた。これらはい



遺跡位置図

いずれも古代（8世紀後半）の所産である。丘陵部から製塩土器が検出されることから判断すると当遺跡は律令期の祭祀遺跡である可能性が高い。遺跡内の低地部分や遺跡外の部分も踏査をおこなったが遺物は確認できなかった。

②要害ヶ城跡（馬谷（うまんに）城跡）（白浜町富田）

要害ヶ城跡（『紀伊続風土記』に記載あり）は中世山城（明応3年築造伝承）で、路線予定地が遺跡中心部を通ることから踏査をおこなった。その結果、山頂部に良好に残存している堀切・郭を確認した。堀切は2箇所あり、東側が幅2.7m（下端1.3m）・深1m、西側が幅5.3m・深1.5～3mの規模である。郭は3箇所あり、いずれも平坦に造成している。最高所に位置する中央郭は東西28x南北14mの規模である。その東側の一段下がった部分にある東郭は東西12x南北16mの規模である。中央郭の西側にも西郭があり、その西側縁辺部には土塁が確認できる。郭部分では礎石と思われる石材を検出し、備前焼甕・投石用の丸石を確認できた。保存が望まれる遺跡である。

③大古II遺跡周辺（日置川町大古（おおふる））

遺跡内を路線予定地が通るため遺跡及び周辺の踏査をおこなった。当遺跡は日置川右岸の自然堤防状の微高地に位置し、現在でもこの微高地に民家が並んでいる。この遺跡内の微高地において弥生土器又は土師器が数片採集でき、この部分に当該期の集落があった可能性が高い。また、この微高地東側の後背湿地には現在水田が広がっており、当該期にも集落に伴う生産域が存在した可能性がある。

④安宅（あたぎ）城跡（屋敷城跡）周辺（日置川町安宅小字城の内）

安宅城跡は日置川左岸の自然堤防状の微高地に位置する中世の城跡（天正年間築造伝承）で、現在も屋敷地を想定できる宅地が残っている。

⑤駒爪城跡周辺（すさみ町周参見小字松の本）

和歌山県教育委員会1998『和歌山県中世城館跡詳細分布調査報告書』によると、駒爪城跡は中世の城跡とされているが、JR紀勢線建設により破壊されたということである。そのため『包蔵地地図』には未掲載である。現地で路線予定地を確認したところ、路線は城跡とされる範囲を通過しないことが分かった。路線予定地周辺を踏査したが遺物は確認できなかった。

⑥立野遺跡（すさみ町周参見小字立野（たちの））

道路予定地が遺跡の中心部を通り、確認調査が確実に必要な部分であることから、今回は分布調査をおこなっていない。

⑦すさみ町江住

すさみIC予定地に当たる江住川流域の踏査をおこなったが遺物は確認できなかった。

⑧田辺市上万呂

左会津川流域の平地部にあたり、踏査をおこなったが遺物は確認できなかった。

⑨白浜町上地松原

白浜ICへのアクセス道路が富田川河口部右岸の平地部を通る予定であり、この予定地に当たる白浜町才野小字上地松原周辺の踏査をおこなった。その結果、現在の水田部分より弥生土器又は土師器と考えられる遺物を1点採集した。地元の方の話では付近一帯が洪水に見舞われたことがあり、上流から流されてきた土器片の可能性もあるが、試掘調査をおこなう必要がある部分である。なお、隣接する白浜町才野小字中では詳細な出土地点は不明であるが、かつて銅鐸が2個体出土したらしい。

35. 川関遺跡 (調査件名 01-58-8)

種別 発掘調査

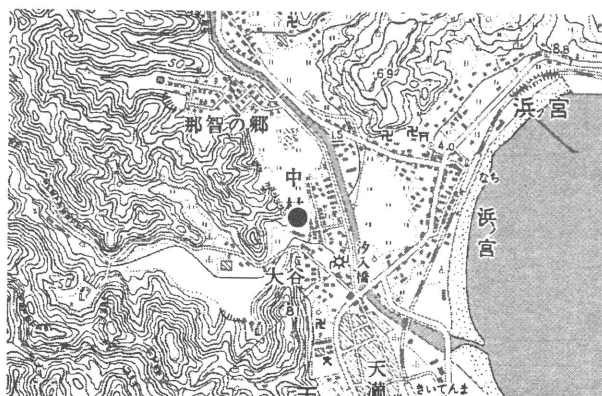
所在地 那智勝浦町天満 29・42-3

<調査の経緯> 川関遺跡は、那智川右岸に立地し、現在は水田地帯である。那智川上流には熊野那智大社や青岸渡寺があり、遺跡対岸には熊野古道が通っている等、那智山への入り口にあたる地域である。平成 11 年 2 月、那智勝浦道路の関連工事中に発見され、遺跡の一部は、当時発掘調査中であった藤倉城跡として調査された。平成 12 年には、道路の試掘調査及び、本発掘調査が実施され、新発見の遺跡が藤倉城とは異なる要素を持つ遺跡と認識されたため、「川関遺跡」と命名された。平成 13 年 6 月、付近の分布調査を実施した際、平成 12 年度事業として新設された町道の掘削土に、多数の山茶碗や白磁等が含まれることを確認した。この町道の擁壁は完成していたが、路面の舗装は未施工であったため、分布調査の結果を基に、川関遺跡の範囲を和歌山県文化財保護条例第 17 条に基づいて周知すると共に、町建設課と協議を行って町道部分の確認調査を実施し、保護資料の収集を図ることとした。

今回の調査では、東から順に 1～5 トレンチの調査区を設定し、各調査区とも、重機で表土掘削後、人力で遺物包含層を掘削し、遺構面の調査を実施した。

<調査成果> 基本層序 1 層 (現代盛土・攪乱)、2 層 (現代耕作土)、3 層 (現代床土)、4 層 (遺物包含層)、5 層 (地山) に分層できる。4 層はさらに 4-a・4-b・4-c・4-d 層の 4 層に分けられる。4-a～c 層は灰褐色から黒褐色を呈し、遺物が多く出土した。黒褐色混じりの黄色シルト層である 4-d 層は遺物が出土せず、地山である可能性もある。

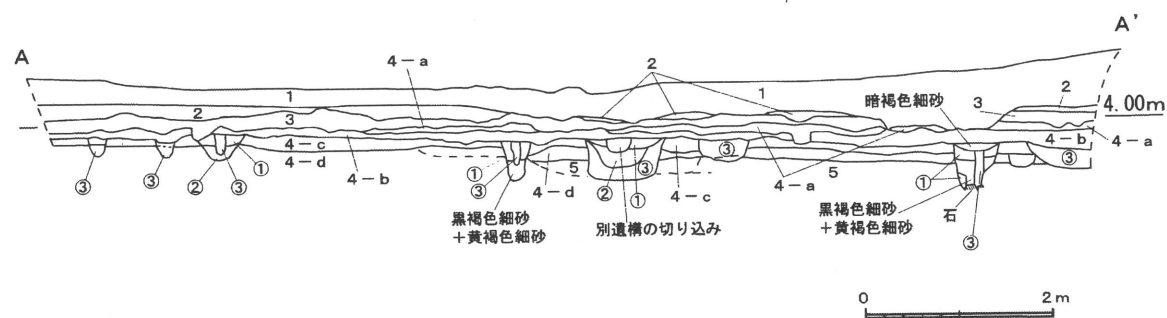
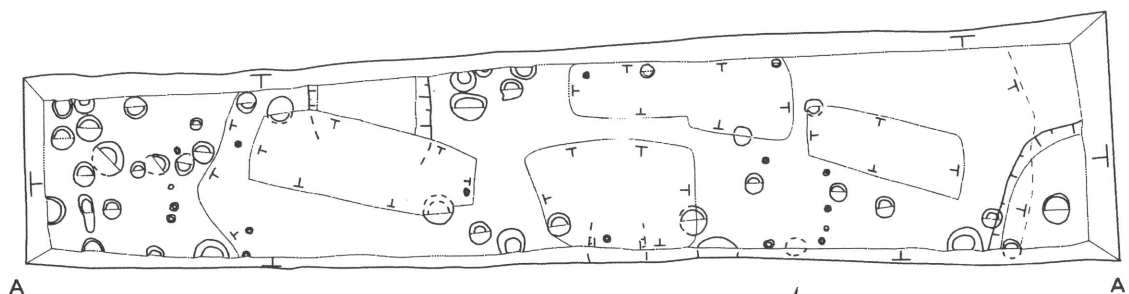
遺構・遺物 1 トレンチ (11.5×2 m) トレンチ中央部は、大半が攪乱のため 4-d 層あるいは 5 層まで削平されており、遺物包含層 (4-a～c 層) が良好に残存していたのは、トレンチ東端部と西端部のみである。4-d 層からは遺物は出土していない。4-b 層上面では、トレンチ東端部で遺構 4 (柱穴) を、南側土層断面で遺構 9 (柱穴) を検出した。(両遺構の埋土は 4-a 層と同じであるため、4-a 層下面遺構として認識する。) 4-c 層上面では、トレンチ東端部と西端部で柱穴や土杭など多数の遺構を検出し、出土遺物から中世 (13 世紀主体)



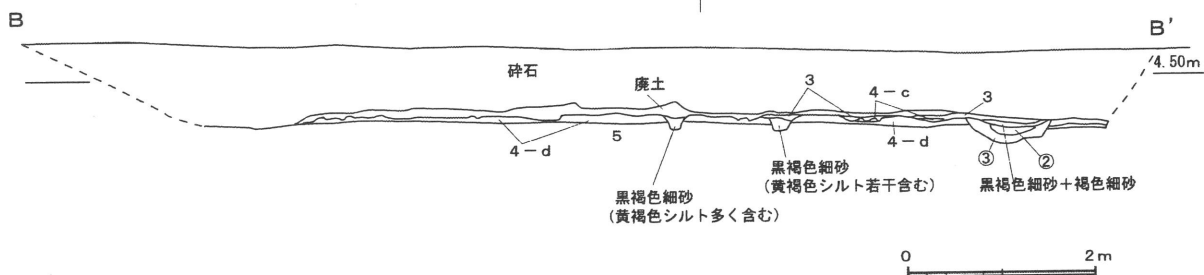
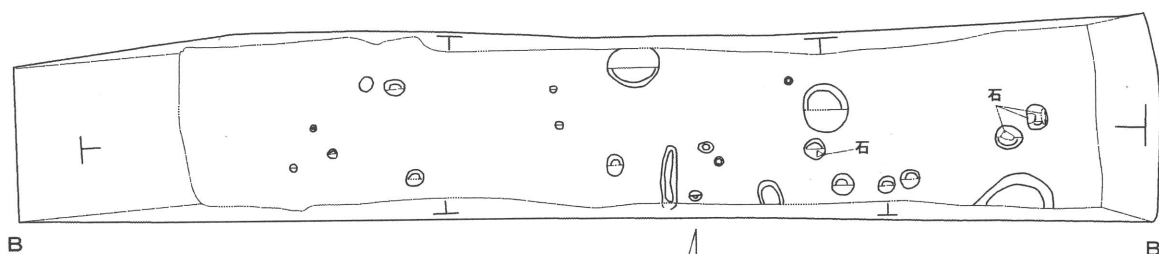
遺跡位置図



調査位置図



1 トレンチ平面図・断面図



2 トレンチ平面図・断面図

基本層序

- 1層：(盛土)
- 2層：黒灰色シルト(耕作土)
- 3層：灰色シルト、鉄分多い(床土)
- 4-a層：灰褐色細砂(包含層)
- b層：褐色混じり黒褐色細砂
- c層：黒褐色細砂(やや粘質)
- d層：黒褐色細砂+黄色シルト
- 5層：黄色シルト~粘質土(地山)

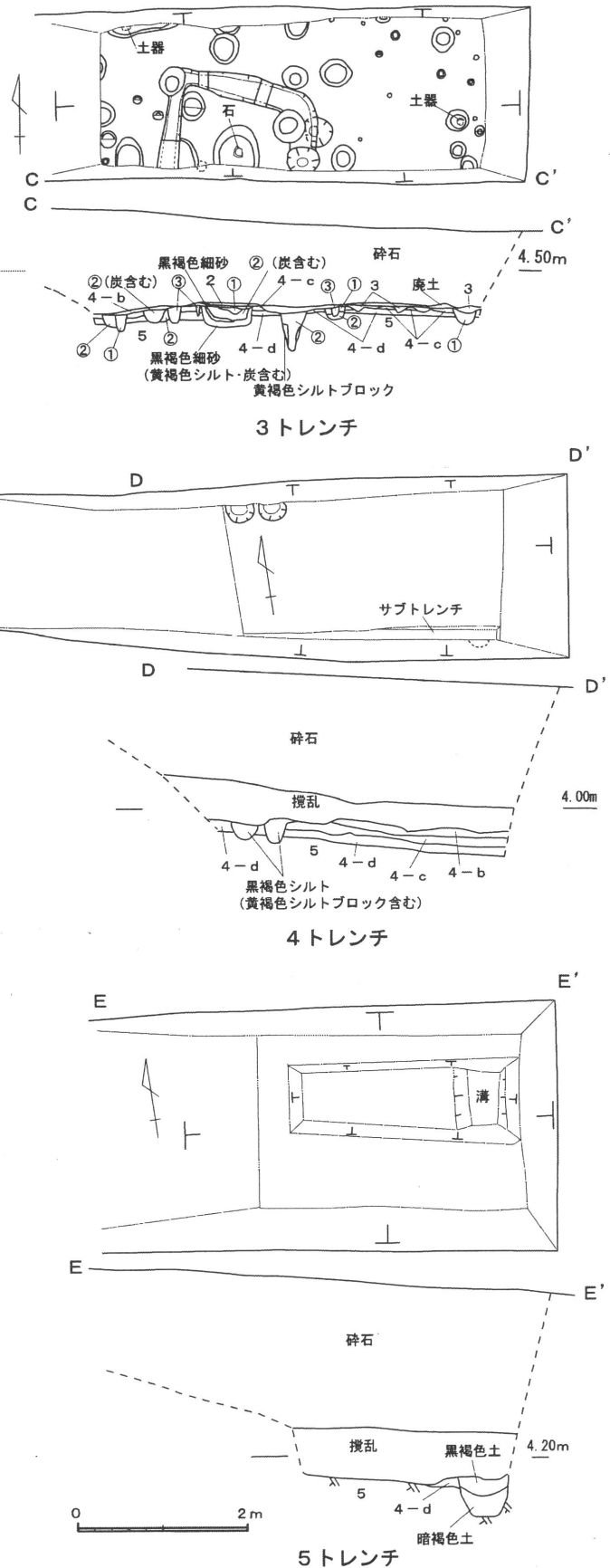
遺構埋土

- ①黒褐色細砂
- ②黒褐色細砂+黄褐色シルトブロック
- ③黒褐色細砂(粘性大)

トレンチ平面図・断面図

では、土層断面中で遺構 114 などを確認した。いずれも中世と考えられる遺構面を 3 面 (4-a 層下面・4-c 層上面・4-d 層上面) 確認したが、4-a 層下面・4-d 層上面遺構面の詳細な時期比定はできなかった。計 64 基の遺構 (柱穴 45 基・土杭 3 基・杭跡 16 基) を検出し、柱穴の多くは建物を構成するものと推定できるが、幅の狭いトレンチ調査であるため、建物の規模・構造は復元できない。ただ複数の遺構面で柱穴を確認したことから、複数の時期にわたって建物群が営まれていたと推定できる。柱穴以外に 3 基の土杭 (方形か?) を検出したが性格は不明である。

2 トレンチ (13×2 m) 近現代の水田や攪乱により 4-d 層から 5 層上面まで削平を受けて、遺物包含層は東端部でわずかに 4-c 層が残存するのみである。計 24 基の遺構 (柱穴 13 基・土杭 3 基・杭跡 8 基) を検出できたが、各遺構が属する遺構面を認識することはできない。しかし遺構埋土が 1 トレンチに類似するため、多くが 4-c 層上面遺構であると推測できる。このトレンチでも柱穴を多く検出したが、建物の規模・構造は復元できない。特徴的な遺構として、炭化物と焼土が充填された遺構 92 (土杭) がある。3~4-b 層で取り上げた遺物中に 16 世紀末~17 世紀初の中国製染付が含まれ、当遺跡の存続時期が



トレンチ平面図・断面図

近世に続く可能性がある。

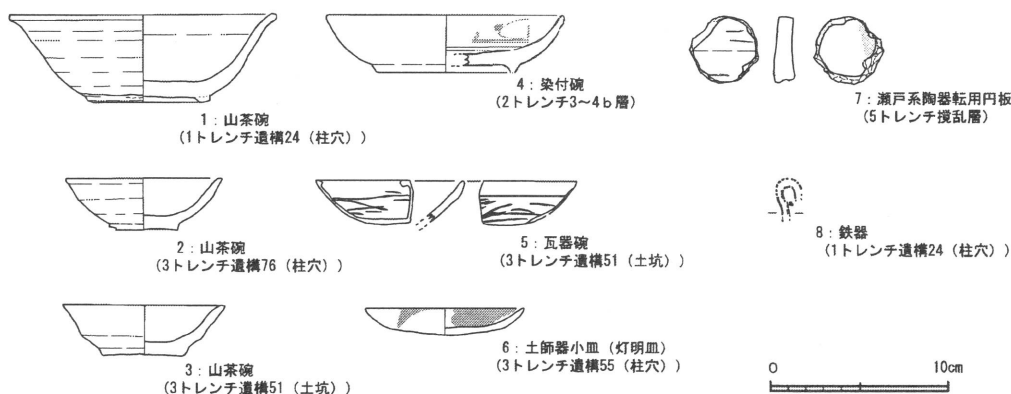
3トレンチ (9.5×2 m) 攪乱による削平は少ないが、2・3層形成時に遺物包含層上部が削られたようである。4-a層は確認できず、4-b層は西側でわずかに残存するのみである。4-c層は、山茶碗を中心に中世遺物を多く含む。4-d層からは遺物は出土していない。計42基の遺構(柱穴21基・土杭2基・杭跡18基・溝1条)を検出し、ほとんどが4-c層上面遺構と考えられるが、遺構165(杭)など一部は4-d層上面遺構である。柱穴は多いが建物の規模・構造は復元できない。特徴的な遺構として方形周溝状遺構(遺構150)とその内側中央に位置する土杭(遺構151)があり、両遺構の主軸がほぼ揃うことは注目できる。遺構151の埋土には炭化物が含まれるため、墓塚の可能性が考えられたが、埋土を水洗した結果、遺構の性格を示す遺物は確認できなかった。遺構150に切られる柱穴と遺構150を切る柱穴があり、4-c層上面遺構の中にも時期差があることがわかる。

4トレンチ (8.5×2 m) 上部は攪乱により削平されているが、東半部分で4-b~d層および5層が認められた。計4基の遺構(柱穴3基・杭跡1基)を検出し、断面の観察により遺構2(柱穴)は4-c層上面遺構、遺構113(柱穴)は4-d層上面遺構であると確認できた。これらの遺構は、出土遺物より中世の所産であると推察できる。

5トレンチ (7×2 m) 攪乱を受けていたが、4-d層の一部と遺構1(溝)を検出できた。遺構1は深さ40cmで逆台形の断面形を呈し、ほぼ南北方向に走る。埋土から、山茶碗・常滑甕が出土し、中世に属する遺構であると考えられる。

各トレンチの遺構や遺物包含層から中世の遺物が多量に出土した。山茶碗が最も多く、土師器も比較的多く出土し、瓦器、常滑焼甕、白磁、青磁、瀬戸系陶器も一定量認められる。なお、近世初期の中国製染付や唐津焼などがわずかながら出土している。3トレンチ遺構55(柱穴)からは鉄釘が7本出土するなど、各トレンチから鉄製品も多く出土している。

所見 今回の調査で、平成10~12年度にかけて(財)県文化財センターが調査した中世の建物群の広がりや今回の調査地まで及んでいることが確認できた。また、複数の遺物包含層(3層分の遺物包含層(4-a・b・c層))と遺構面(3面の遺構面(4-a層下面、4-c層上面、4-d層上面))が確認できたことは、川関遺跡の集落変遷を考えるうえで重要な成果である。さらに4-c層上面遺構では、遺構の切り合いが認められることから、同一遺構面で検出した遺構の中にも時期差があることが想定できる。それぞれの遺物包含層と遺構面の細かい時期比定はできていないが、遺構の多くは中世に所属するものと思われる。ただし、近世前半の遺物も若干出土していることから、遺跡の存続時期は近世まで続くと考えられる。



遺物実測図



古紙配合率100%再生紙を使用しています

和歌山県埋蔵文化財調査年報

—平成13年度—

発行日	平成15年3月31日
編集・発行	和歌山県教育委員会 和歌山市小松原通1丁目1
印刷	水口孔版社 和歌山市雄松町2-11